撓まず屈せず

たわまずくっせず

復旧・復興の歩み　岩手県釜石市

令和3年
3月

平成23年３月11日に発生した東日本大震災から10年の節目を迎えました。被災された方々を始め、地権者の皆様、復興工事に携わった施工業者の皆様など、多くの関係者のご協力と、世界中からの温かいご支援、全国の自治体から多くの派遣職員のご協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

東日本大震災で犠牲になった多くの市民への鎮魂の想いをまちづくりの出発点に復旧･復興の取組を市民一丸となって取り組んでまいりました。

残念ながら震災からの10年で全ての復興事業を終えることはできませんでしたが、今後も被災した方々の心のケアなどに取り組み、心の復興を果たし、市民一人ひとりが夢と希望を持って生き生きと暮らせる持続可能なまちであり続けられるよう、引き続き取り組んでまいります。

このパンフレットは、東日本大震災からの復旧・復興に向け、市民一丸となって取り組んだ軌跡をまとめたものです。ご覧いただきまして、当市の取組にご理解賜れれば幸いに存じます。

令和３年３月

釜石市長　野田　武則

目次 CONTENTS

Ⅰ **被災～復旧・復興 10 年間の出来事** …… 1～6

Ⅱ **釜石市復興まちづくり基本計画** …… 7

Ⅲ **住まいの再建** …… 8～10

1. 自宅再建等の推移
2. 宅地の整備
3. 復興事業の進捗

Ⅳ **産業（なりわい）の再生** …… 11～16

1. 商工業者の再建
2. 水産業の再生
3. 釜石港の復旧・復興状況
4. 企業立地の状況
5. 再生可能エネルギー（海洋エネルギー・風力発電）

Ⅴ **にぎわいと交流の創出** …… 17～28

1. 東部地区・中心市街地再生の取組（フロントプロジェクト1）
2. 新市庁舎建設の取組（フロントプロジェクト 2）
3. 釜石魚河岸にぎわい館「魚河岸テラス」（フロントプロジェクト 3）
4. 道の駅「釜石仙人峠」
5. 復興道路・復興支援道路の整備
6. ラグビーワールドカップ 2019™ 釜石開催のレガシーを未来に
7. 東京 2020 におけるホストタウンの取組
8. 文化財の再生
9. 世界遺産「明治日本の産業革命遺産」橋野鉄鉱山

Ⅵ **安心安全なまちづくり** …… 29～34

1. 復興を内包した地域包括ケアの取組
2. 復興公営住宅での自治会設立支援
3. 安心できる子育て環境づくり
4. 学校等建設事業の概要
5. 学校給食センター整備事業の概要
6. 東日本大震災の検証
7. 鵜住居駅前地区公共施設「うのすまい・トモス」

Ⅶ **未来の希望を創るまちづくり** …… 35～43

1. 第 2 期釜石市人口ビジョン・オープンシティ戦略
2. 釜援隊
3. 高校生に対するキャリア教育「釜石コンパス」
4. 地域おこし協力隊の活躍
5. 地域おこし企業人の活躍
6. UI ターンへの挑戦
7. 空き家の利活用
8. しごと・くらしサポートセンター／ジョブカフェかまいし
9. 教育機関・金融機関等との連携
10. 危機対応学の取組
11. 持続可能な三陸地域を
12. 第六次釜石市総合計画策定の取組

Ⅷ **参考資料** …… 44

Ⅰ.被災～復旧・復興10年間の出来事

地震の概要

発 生 日 時　平成23年3月11日(金)、14時46分頃
震　　　源　三陸沖（牡鹿半島の東南東130km付近）
規模／震度　マグニチュード9.0／震度6弱（市内中妻町）

津波の概要

第　一　波　3月11日14時台　−119cm
最　大　波　　11日15時21分　9.3m
※気象庁（釜石港湾合庁の痕跡等から推定した津波の高さ）

【参考】公益社団法人土木学会東日本大震災特別委員会
総合調査団資料
9.2m（釜石湾平田漁港付近・浸水高）
19.3m（両石湾両石漁港背後地・遡上高）
15.4m（大槌湾釜石東中学校近くのがけ・遡上高）

釜石市の被災状況

①人的被害
●死亡者数：1,064人
（行方不明者数152人、関連死認定者数106人含む）
●避難者数：市内避難9,883人（H23.3.17最大）
内陸避難　633人（H23.5.9最大）

②家屋被害
●住家数16,182戸のうち4,704戸が被災（29%）
※被災の内訳（全壊2,957戸、大規模半壊395戸、半壊304戸、一部損壊1,048戸）

③産業関係
●市内全事業所2,396事業所のうち浸水範囲の事業所数1,382事業所（全体の57.7%）
●漁業関係：市内3漁協の漁船1,734隻のうち1,692隻が被災（97.6%）

平成23年3月14日（月）
自衛隊による遺体捜索と道路確保の瓦礫撤去

震災からの出来事

平成23年

3月11日　東日本大震災発災
3月13日～　がれき撤去作業開始
3月14日　災害ボランティアセンター設置
3月16日　無料バス運行開始
3月17日　仙人峠道路通行規制解除
3月18日　住宅相談、生活相談窓口をシープラザに開設
3月23日　市内保育所の再開
4月 1日　ガソリンスタンド通常供給再開
4月 6日　JR釜石線運転再開
4月11日　かまいしさいがいエフエム開局
4月11日　生活再建支援相談窓口設置／り災・被災証明発行開始
4月21日　仮設住宅入居開始／昭和園
4月14日～26日　市内各小中学校新年度授業再開
5月 6日　天皇・皇后両陛下ご訪問
5月 6日　拾得物(思い出の品)公開開始
5月12日　復興まちづくり懇談会開始
5月26日　復興まちづくり委員会開始
6月11日　震災から3ヵ月の黙祷
6月11日　復興釜石新聞創刊
6月26日　合同慰霊祭(浜町)
7月 1日　唐丹児童館(幼児)の再開
7月12日　断水解消(被災地以外)
7月17日　釜石港国際フィーダーコンテナ定期航路開設
8月 1日　生活支援相談員配置
8月 1日　ワンコインバスの運行開始
8月 4日　釜石第2魚市場が再開
8月 4日　釜石漁連製氷工場が一部再開
8月10日　仮設住宅サポートセンターの設置
8月15日　追悼盆踊り(鵜住居)
8月26日　復興天神15商店街完成…県内第1号
9月21日　鵜! はまなす商店街完成
9月23日　震災6ヵ月・合同慰霊祭
9月25日　復興祈願祭(鵜住居)
10月 1日　岩手大学三陸復興推進本部「釜石サテライト」を設置
10月11日　岩手県水産技術センター仮復旧
10月17日　鵜住居地区医療センター開設
10月23日　釜石復興イベント／「たちあがろう釜石」
11月 7日　青葉公園商店街完成
12月 7日　平田パーク商店街完成
12月 9日　「津波記憶石」除幕式／根浜海岸
12月12日　釜石はまゆり飲食店街完成

平成23年3月11日（金）15時40分　浜町避難道路から津波襲来を見ている避難者

平成23年3月15日（火）
災害対策本部を鈴子町の
シープラザに移動

平成23年3月16日（水）
自衛隊による物資受入、シープラザ駐車場

平成23年3月16日（水）栗林小学校体育館の避難所を市長が訪問

平成23年3月17日（木）
第二次緊急消防援助隊が遠野市の雪道を進行

12月22日　環境未来都市に指定
12月22日　「釜石復興まちづくり基本計画 スクラムかまいし復興プラン」の策定
12月31日　釜石復興の鐘　除幕式

平成24年

1月16日　唐丹小学校／仮設校舎で授業開始
1月17日　唐丹中学校／仮設校舎で授業開始
1月21日～22日
　釜石復興イベント／希望の光ムーブメント
2月 9日　唐丹児童館（学童）／仮設施設で再開
2月26日　釜石港湾口防波堤復旧工事着工
2月27日　鵜住居小学校／仮設校舎で授業開始
3月 1日　仮設団地に支援連絡員を配置
3月 9日　鵜住居児童館／仮設施設で再開
3月11日　東日本大震災犠牲者追悼式
　かまいし復興の祈り
3月17日　釜石仏教会 合同法要
3月31日　鵜住居復幸祭
4月 6日　釜石東中学校／仮設校舎で授業開始
4月14日～ 5月12日　薬師公園桜まつり再開
4月16日　かまいしまるごとコミュニティバスが運行開始
4月25日　青葉ビル　リニューアルオープン
7月 1日　「津波記憶石」建立／唐丹町本郷地区
7月26日　かみなかフェスタの復活
7月28日　生活ご安心センター設置
8月 5日～ 1月10日
　地権者連絡会・復興まちづくり協議会の開催
8月11日　三陸海の盆／鎮魂・納涼花火大会
10月10日　にこにこバスが運行開始
11月22日　新浜町魚市場一部竣工式典／殺菌冷海水製造装置の竣工式典
11月 3日～ 4日　再生かまいし産業まつり
11月 4日　釜石花巻道路／釜石～釜石西「即年着工」起工式

平成25年

1月19日～20日　釜石復興イベント／希望の光ムーブメント
2月18日　会報「鵜住居復興新聞」第1号を発行
3月11日　東日本大震災犠牲者追悼式／
　かまいし復興の祈り　第2回
3月18日　唐丹小白浜海岸防潮堤災害復旧工事着工
3月27日　上中島町に復興公営住宅竣工…市内第1号
4月 1日　釜石・大槌地域産業育成センター業務再開・開所
4月14日　釜石市球技場リニューアルオープン
4月19日～　地権者連絡会・復興まちづくり協議会の開催

平成23年4月3日（日）
災害ボランティアの受付を郷土資料館で開始

平成23年8月10日（水）
平田第6仮設団地、41棟・240戸を設置

平成23年9月23日（金）
震災6ヵ月、市民体育館で合同慰霊祭を開催

平成24年6月26日（火）
議場で東部地区復興計画の住民説明会を開催

平成24年7月1日（日）
唐丹町本郷地区、住民94名の教訓を刻む

平成24年10月20日（土）
釜石まつり「曳船」、青出浜から魚河岸へ

平成25年2月10日（日）
北九州市との連携協定締結

平成25年3月11日（月）
東日本大震災犠牲者追悼式

平成25年3月27日（水）
上中島復興公営住宅Ⅰ期竣工

震災からの出来事

5月11日　岩手大学三陸復興推進機構
　　　　釜石サテライト新設オープン
　　　　岩手大学三陸水産研究センター併設
5月15日　三陸沿岸道路／釜石山田大槌町区間で着工式
5月15日　上中島復興公営住宅第1期の入居開始
5月18日　平田地域復興祭
6月　2日　大町ほほえむスクエアオープン
8月　4日　釜石はまゆりアクアスロン
8月10日　鵜住居に仮設追悼施設完成
8月10日　鵜住居地区防災センター／
　　　　犠牲者追悼式、復興花火
8月16日～18日　SHIBUYA109 KAMAISHI開店
9月　7日　釜石よいさ復活
9月　8日　釜石市郷土芸能祭復活
9月17日　橋野鉄鉱山世界遺産推薦決定
9月22日～23日　釜石まるごと味覚フェスティバル復活
11月　2日　皇太子・同妃両殿下ご訪問
11月　4日　鵜住居川鮭ふ化場再建　落成式
11月10日　橋野鉄鉱山インフォメーションセンターオープン
12月20日　花露辺復興住宅竣工

平成26年

2月　2日　新春　韋駄天競争
3月23日　第4回釜石復興全国虎舞フェスティバル
4月　1日　釜石消防署新庁舎完成
4月　5日　三陸鉄道南リアス線運行開始
　　　　（4月6日に南北リアス線全線開通）
4月12日　JR釜石線でSL運行開始
6月　8日　釜石百人会議
7月18日　尾崎白浜コミュニティー番屋完成
8月　3日　釜石はまゆりトライアスロン大会再開
9月　9日　吉浜釜石道路荒川トンネル着工
10月17日～19日　釜石まつり
10月31日　ラグビーワールドカップ2019TM大会に立候補
12月　5日　タウンポート大町グランドオープン

平成27年

2月14日　釜石シーウェイブストップリーグ昇格へチャレンジ
3月　2日　ラグビーワールドカップ2019TM開催都市に決定
4月　1日　幼保連携型認定こども園「かまいしこども園」開設
4月21日　道の駅「釜石仙人峠」オープン
4月26日　釜石さくら祭（唐丹町）
4月30日　唐丹地区学校等建設工事起工式
6月21日　釜石○○会議～チャレンジ報告会～
7月　5日　橋野鉄鉱山が世界遺産への登録決定
7月　　　釜石市震災メモリアルパーク整備基本計画の策定
8月　1日　橋野鉄鉱山世界遺産登録記念フォーラム
　　　　祝賀会を開催
8月　2日　釜石はまゆりトライアスロン国際大会
9月　　　応急仮設団地集約化計画（第2次）案まとまる
11月15日　ラグビーカフェ釜石（シープラザ釜石内）プレオープン
11月21日　KAMAISHIコンパス（高校生に対するキャリア教育授業）スタート
12月23日　釜石情報交流センターオープン

平成25年9月7日（土）
3年ぶりの復活「釜石よいさ」

平成25年11月10日（日）
橋野鉄鉱山インフォメーションセンター開所式

平成26年4月5日（土）
三陸鉄道（南リアス線）が運行開始
（4月6日に南北リアス線全線開通）

平成26年4月12日（土）
JR釜石線でSL運行開始

平成26年6月8日（日）
釜石百人会議

平成26年8月3日（日）
釜石はまゆりトライアスロン大会再開

平成26年12月5日（金）
タウンポート大町グランドオープン

平成27年3月2日（火）
ラグビーワールドカップ2019開催都市に決定

平成27年7月5日（日）
橋野鉄鉱山が世界遺産への登録決定

平成28年

1月 9日 チームスマイル・釜石PITグランドオープン
1月29日 釜石高校硬式野球部
21世紀枠で春の甲子園出場決定
2月29日 釜石港公共ふ頭復旧工事完了
3月19日～21日 Meet up Kamaishi
4月 1日 岩手大学農学部食料生産環境学科
水産システム学コース設置
4月29日 ラグビーカフェ釜石（シープラザ釜石内）
グランドオープン
6月30日 旧釜石鉱山事務所リニューアルオープン
7月11日 空き家バンク開設
8月 2日 岩手三陸連携会議発足
9月 4日 釜石大観音「恋人の聖地」モニュメント除幕式
9月～10月 希望郷いわて国体、オープンウォータースイミング・トライアスロン・ラグビーフットボール（7人制）競技を釜石で開催
10月23日「道の駅釜石仙人峠」来場者100万人達成
11月 3日 Airbnbと「観光促進に関する覚書」締結

平成29年

1月27日 釜石漁火酒場かまりばグランドオープン
2月 唐丹小学校・唐丹中学校新校舎での学習スタート
3月18日～20日 Meet up Kamaishi 2017の開催
4月 岩手大学大学院総合科学研究科
地域創生専攻（修士課程）設置
4月 鵜住居小・釜石東中学校新校舎での学習スタート
4月 鵜住居幼稚園新園舎での保育スタート
5月16日 新釜石市魚市場供用開始
5月 8日～22日 尾崎半島林野火災
8月 6日 釜石オープンウォータースイミング2017根浜
9月23日 釜石港ガントリークレーン供用開始
9月30日～10月15日 Meet up Kamaishi 2017 Autumnの開催
11月17日 釜石港外貿コンテナ定期航路開設
12月 6日 ㈱LIFULL、楽天LIFULL STAY㈱と
「空き家の利活用を通じた地域活性化連携協定」締結
12月 8日 釜石市民ホールTETTO開館
12月27日 千年橋開通

平成30年

2月 9日 市制施行80周年記念式典
2月10日 近代製鉄発祥160周年記念フォーラム
3月31日 釜石港湾口防波堤復旧工事完了
4月 4日 楽天㈱と「包括連携協定」締結
4月14日 きぼうの桜（宇宙桜）植樹祭
4月20日～21日 東北リーダーズ・カンファレンス2018
7月 3日 鵜住居地区防災センターに係る訴訟の和解成立
7月31日 東日本大震災物故者納骨堂竣工
8月19日 釜石鵜住居復興スタジアムオープニングDAY
9月29日 姉妹都市フランス共和国ディーニュ・レ・バン市訪問
11月16日 鉄の歴史館来場者100万人達成
11月16日～17日 嚶鳴フォーラム in 釜石
12月15日 ミッフィーストリートオープニング記念イベント
12月15日 浜町復興住宅竣工（復興住宅全戸完成）

平成28年1月29日（金）
釜石高校硬式野球部　春の甲子園出場決定

平成28年6月30日（木）
旧釜石鉱山事務所リニューアルオープン

平成28年9月4日（日）
釜石大観音「恋人の聖地」モニュメント除幕式

平成28年10月23日（日）
「道の駅釜石仙人峠」来場者100万人達成

平成29年1月27日（金）
釜石漁火酒場かまりばグランドオープン

平成29年4月10日（月）
市立鵜住居幼稚園竣工式

平成29年4月22日（土）
市立鵜住居小学校・市立釜石東中学校校舎完成記念式

平成29年4月23日（日）
市立唐丹小学校・市立唐丹中学校校舎完成記念式

平成29年9月23日（土）
釜石港ガントリークレーン供用開始式

震災からの出来事

12月21日 五葉山石楠花荘供用開始

平成31年・令和元年

平成31年
2月17日～3月17日 Meet up Kamaishi 2019 Winterの開催
3月 9日 東北横断自動車道釜石秋田線全線開通
3月11日 釜石祈りのパーク除幕式
3月11日 釜石市防災市民憲章制定
3月23日 三陸鉄道リアス線開通
3月23日 いのちをつなぐ未来館開館
3月23日 鵜の郷交流館開館
3月24日 東日本大震災殉職消防団員顕彰碑除幕式
3月25日 被災消防団屯所・資器材倉庫の全16施設復旧完了
4月 1日 汐立雨水ポンプ場供用開始
4月13日 釜石魚河岸にぎわい館「魚河岸テラス」グランドオープン
令和元年
6月 1日 釜石市支線部コミュニティバス運行開始
6月 1日～ 8月 7日 三陸防災復興プロジェクト2019開催
6月22日 三陸沿岸道路市内区間全線開通
7月 1日 釜石・遠野地域成年後見センター開所
岩手大学総合教育研究棟（水産系）竣工式
7月 5日 東日本大震災復旧・復興支援活動フォーラム
7月16日 釜石警察署・沿岸運転免許センター・県警交通機動隊沿岸分駐隊が新庁舎で業務開始
7月20日 根浜海岸震災後初の海開き
7月25日 箱崎白浜民泊施設「御箱崎の宿」供用開始
7月27日 釜石鵜住居復興スタジアムでパシフィックネーションズ2019日本ラウンド 日本代表vsフィジー代表戦
8月 8日 根浜観光施設供用開始
8月26日 釜石港が県内初の動物検疫港指定
9月11日 鵜住居地区商業施設「うのポート」オープン
9月20日～11月 2日 ラグビーワールドカップ2019™日本大会開催
9月25日 ラグビーワールドカップ2019™フィジーvsウルグアイ戦
10月13日 ラグビーワールドカップ2019™ナミビアvsカナダ戦中止
11月13日 東日本大震災復興支援感謝のつどい
12月 1日 釜石市民体育館一般供用開始

令和2年

1月22日 釜石港がポート・オブ・ザ・イヤー2019受賞
3月11日 東日本大震災津波岩手県・釜石市合同追悼式
3月20日 三陸鉄道リアス線台風第19号被害からの全線開通
4月 学校給食センター開所
4月 1日 グリーンベルト供用開始
10月10日～11日
いわて・みやぎ・ふくしま3県合同スポーツフェスタ in 釜石
10月10日 ラグビーワールドカップ開催1周年
いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント開催

令和3年

3月31日 根浜海岸砂浜再生事業完了
三陸沿岸道路全線供用

令和4年度

新市庁舎竣工

平成29年11月17日（金）
釜石港外貿コンテナ定期航路開設記念式典

平成29年12月8日（金）
釜石市民ホール TETTO 開館記念式典

平成30年2月9日（金）
釜石市制施行80周年記念式典

平成30年4月14日（土）
きぼうの桜（宇宙桜）植樹祭

平成30年4月20日（金）～21日（土）
東北リーダーズ・カンファレンス2018

平成30年7月31日（火）
東日本大震災物故者納骨堂竣工

平成30年11月16日（金）
鉄の歴史館来場者100万人達成

平成30年11月16日（金）～17日（土）
嚶鳴フォーラム in 釜石

平成30年12月21日（金）
五葉山石楠花荘供用開始

平成31年3月23日（土）
三陸鉄道リアス線全線開通

令和元年6月22日（土）
三陸沿岸道路（釜石北IC～大槌IC）開通

令和元年7月5日（金）
東日本大震災復旧・復興支援活動フォーラム

令和元年7月16日（火）
釜石警察署新庁舎で業務開始

令和元年7月20日（土）
根浜海岸海開き

令和元年9月11日（水）
鵜住居地区商業施設「うのポート」オープン

Ⅱ．釜石市復興まちづくり基本計画

【目指すべき釜石の将来像】

三陸の大地に光輝き希望と笑顔があふれるまち釜石

基本理念：次世代に誇りうるまちを創ること
① 人々の意識や行動のあり方への喚起
② 希望と可能性の追求
③ 歴史に学び、さきがけとなるまちづくり

基本姿勢：撓(たわ)まず屈せず

基本方針：
1 災害に強い都市構造への抜本的転換
2 この地で生き続けるための生活基盤の再建
3 逆境をバネとした地域経済の再建
4 子どもたちの未来や希望の創造

基本目標

1 暮らしの安全と環境を重視したまちづくり
2 絆と支え合いを大切にするまちづくり
3 生活の安心が確保されたまちづくり
4 人やもの、情報の交流拠点づくり
5 ものづくり精神が息づくまちづくり
6 強く生き抜く子どもを育てるまちづくり
7 歴史や文化、スポーツを活かしたまちづくり

●総　括

東日本大震災からの復旧・復興に市民一丸となって取り組んだ結果、復興公営住宅の整備や防災集団移転促進事業等を活用した高台への移転等被災した方々の住まいの再建を果たしたほか、災害復旧費や復興交付金等を活用し、被災した学校等公共施設の復旧や釜石市民ホール、うのすまい・トモス、魚河岸テラスなどにぎわい創出の核となる公共施設の整備など行ってきました。

3つの基本理念に沿ったこれまでの取組の振り返り

基本理念１．人々の意識や行動のあり方への喚起

市民一人ひとりが他に頼り切ることなく自ら判断しながら助け合う自助・共助の精神を喚起する取組として、身近な地域で安心して自分らしい生活を送ることができるよう「釜石版地域包括ケア」を推進したほか、「釜石市防災市民憲章」の制定や防災教育を核とした「いのちの教育」の充実など防災意識の向上を図る取組を推進してきました。

基本理念２．希望と可能性の追求

高齢者が先行きに安心感を持ち、子どもや若者が将来に光を見出す取組として、人々がこの地に住み続ける希望が持てるよう、総務省の復興支援員制度を活用して、復興支援員「釜援隊」を組織し、地域活動や地域産業の担い手育成等を行ったほか、交流の促進と当市への移住・定住を目的とし、地域おこし協力隊制度を活用した「ローカルベンチャー推進事業」を実施してきました。

基本理念３．歴史に学び、さきがけとなるまちづくり

橋野鉄鉱山のユネスコ世界遺産登録や世界的イベントであるラグビーワールドカップ2019™日本大会岩手・釜石開催など未来の希望につながる取組を展開してきました。

こうした一方で、被災者の住まいの再建や事業者のなりわいの再生、一部基盤整備事業において、復興まちづくり基本計画期間内の完了が見込めない状況となっているほか、被災者の中には未だに東日本大震災からのストレスや新たな生活環境に順応できず、引き続き心のケアが必要な方もいます。

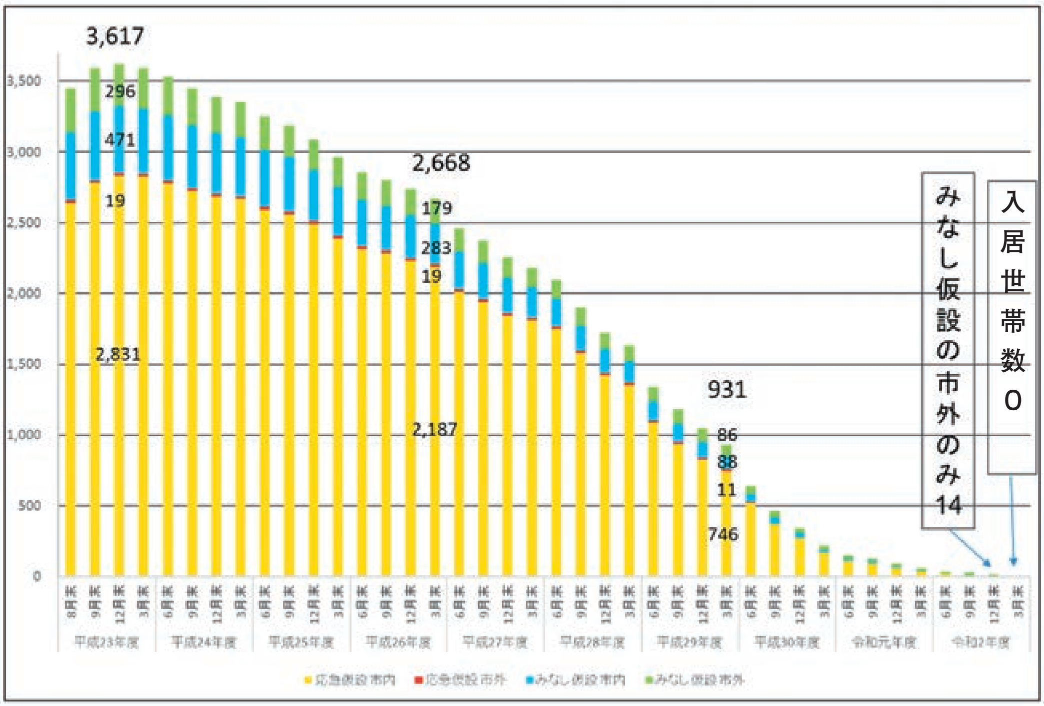
また、震災後整備した復興公営住宅の自治組織が未設置等の理由により、地域コミュニティの衰退も課題になっています。

第六次釜石市総合計画では、これらの課題解決に向け引き続き取り組み、被災者一人ひとりが心の復興を果たし、第六次釜石市総合計画期間中の令和7年度を目途に復興宣言ができるよう取り組んでいきます。

1 自宅再建等の推移

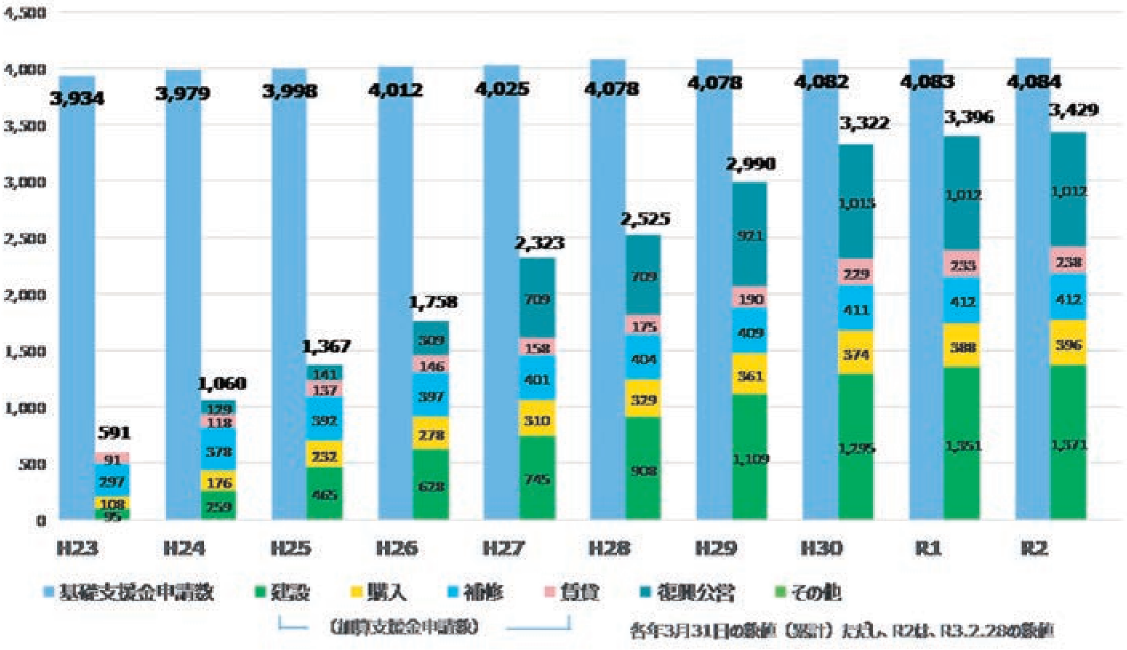
仮設住宅入居者数の推移

仮設住宅の入居世帯数は、平成23年12月末の3,617世帯をピークに、復興事業の進捗とともに次第に減少していきました。令和2年12月末には市内仮設住宅の入居世帯数が0になり、令和3年3月末で市外のみなし仮設を含め仮設住宅入居世帯数が0となりました。



生活再建支援金申請数の推移

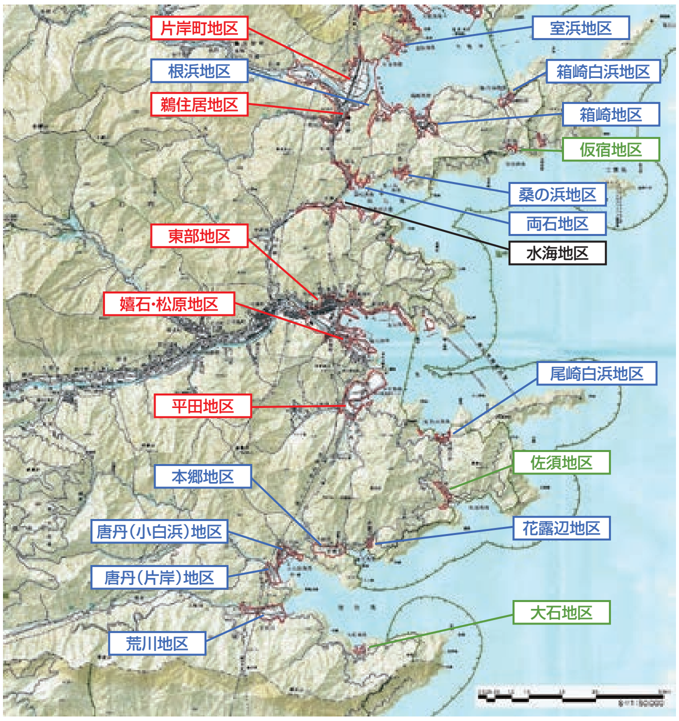
生活再建支援金とは、自然災害により生活基盤に著しい被害を受けた方に対し、生活の再建を支援するために支給されるもので、住宅の被害程度に応じて支給される基礎支援金と、住宅の再建方法に応じて支給される加算支援金に分けられます。



2 宅地の整備

都市再生区画整理事業では4地区・1,056区画、防災集団移転促進事業及び漁業集落防災機能強化事業では13地区・213区画、津波復興拠点整備事業では1地区・181区画の宅地整備を行い、平成30年度末で全区画の整備が完了しました。

一日でも早く整備が完了できるよう、復興公営住宅建設業者や造成工事の事業者等と調整会議を開催



地区	事業名
	都市再生区画整理事業、津波復興拠点整備事業
	防災集団移転促進事業
	漁業集落防災機能強化事業

※防災集団移転促進事業には漁業集落防災機能強化事業を合わせて実施する地区を含む
※津波復興拠点整備事業は東部、鵜住居地区のみ
※水海地区は社会資本整備総合交付金事業のみ

都市再生区画整理事業

●都市計画区域内の地域で、道路・公園などの公共施設や皆さんの土地を安全で利便性の高いものにするために、公共施設の整備改善や土地の区画形質の変更・集約化を行います。

防災集団移転促進事業

●災害の危険の恐れがある地域から住宅を移転するために、高台や造成地などの住宅団地を整備します。
●移転元の土地は住宅地としては利用不可となっています。

両石地区近況

漁業集落防災機能強化事業

●漁業集落において、安全安心な居住環境を確保するための地盤かさ上げ、生活基盤や防災安全施設の整備等を実施します。

津波復興拠点整備事業

●被災した地域の復興を先導する拠点とするため、住宅、公益施設、業務施設等の機能を集約させ、安全な市街地を整備するため、都市施設を整備します。

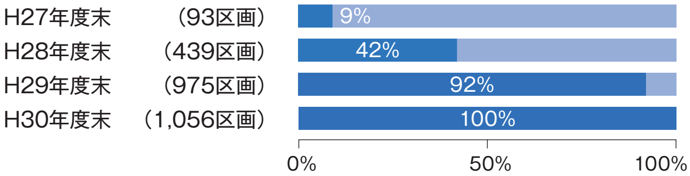
3 復興事業の進捗

釜石市の主な復興事業の進捗状況は以下のとおりです。

全体整備計画　2,585（区画・戸）
- 都市再生区画整理事業　1,056区画
- 防災集団移転促進事業　124区画
- 漁業集落防災機能強化事業　89区画
- 復興公営住宅　1,316戸

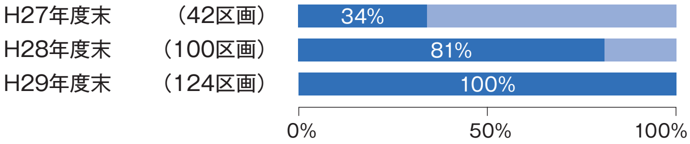
都市再生区画整理事業の進捗状況

-整備地区　4地区
-対象区画数　1,056区画



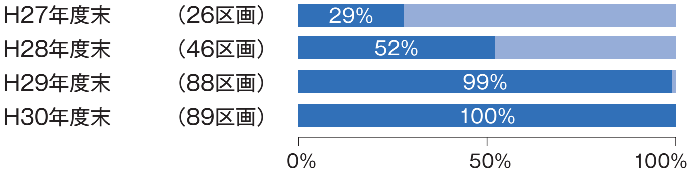
防災集団移転促進事業の進捗状況

-整備地区　11地区
-対象区画数　124区画



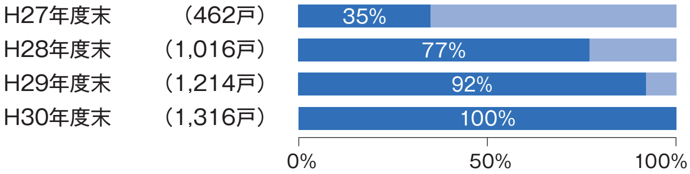
漁業集落防災機能強化事業の進捗状況

-整備地区　10地区
-対象区画数　89区画



復興公営住宅の進捗状況

-整備地区　22地区
-全体整備予定数　1,316戸



※復興公営住宅の整備戸数　内訳

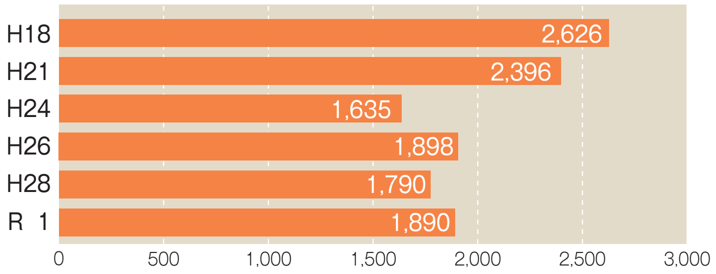
施工区分		団地数	全体戸数	管理区分		団地数	全体戸数
釜石市	集合	21	755	釜石市	集合	23	817
	戸建	18	188		戸建	18	188
岩手県	集合	8	373	岩手県	集合	6	311
合　計		47	1,316	合　計		47	1,316

Ⅳ. 産業（なりわい）の再生

1 商工業者の再建

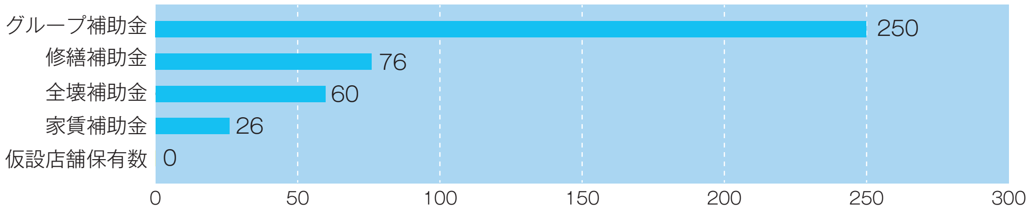
●経済センサスにおける事業所数の推移

※H21全事業所数2,396事業所うち浸水範囲の事業所数1,382事業所（全体の57.7%）
※H28経済センサスでは従来調査対象となっていた一部の事業所が調査対象外となっている。

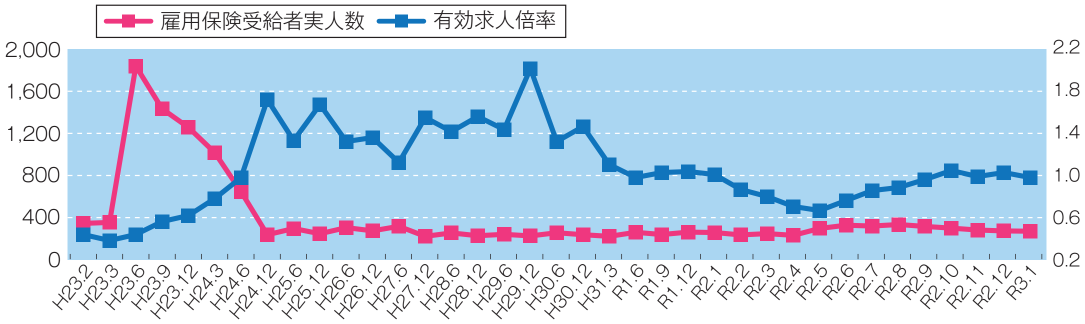


●再建支援の状況

令和3年3月末現在



●雇用の状況



●再建状況調査

被災した事業者のうち半壊以上の1,035事業者の状況（令和3年3月）

調査年月	H25.4	H30.3.31	H31.3.31	R2.3.31	R3.3.31
再建済み	406事業者	568事業者	620事業者	647事業者	659事業者
休業・廃業済み	94事業者	322事業者	377事業者	375事業者	376事業者
再建予定		32事業者	0事業者	0事業者	0事業者
不　　明	321事業者	0事業者	0事業者	0事業者	0事業者
仮設店舗営業中	214事業者	113事業者	38事業者	13事業者	0事業者

●令和2年度までの集中復興支援策

市では、独自の支援策を講じることで、被災した事業者の再建を後押ししました。

・中小企業再建支援補助金……………… 既存補助金対象外の事業者向け（1/2補助：上限100万円）40件交付
・中小企業振興資金融資………………… 再建資金を借入する事業者向け（利子補給の拡充1%⇒2%）

（中心市街地東部地区の復興状況）

2 水産業の再生

●新魚市場等水産業拠点の整備

水産業の拠点となる新魚市場整備と大型漁船にも対応した製氷施設の整備を進め、平成29年度から供用を開始しています。

新釜石市魚市場の竣工・供用開始

水産業の拠点・新魚市場
（平成29年5月供用開始）

大型漁船の誘致・受入に向けた製氷機能の竣工・供用開始

新浜町地区に整備の製氷貯氷給氷施設
（平成29年4月稼働開始）
（整備主体:釜石市漁業協同組合連合会）

●魚市場背後区域への加工機能集積・強化

新魚市場背後地への水産加工機能の誘導、新規整備により、これまで当市水産業の課題とされてきた買受機能の強化、拡充を図り、水揚増強、釜石産水産物のブランド化、雇用の拡大等、水産経済活動の活性化による「魚のまち」釜石の復興を図ります。

岩手罐詰（株）
（浜町　平成28年3月末稼働開始）

釜石水産物商業協同組合
（浜町　平成28年4月稼働開始）

（株）伊藤商店
（東前町　平成29年4月稼働開始）

平庄（株）
（新浜町　平成29年8月稼働開始）

（有）廻船問屋マルワ
（浜町　平成30年12月稼働開始）

雁部冷蔵（株）
（東前町　令和元年9月稼働開始）

釜石ヒカリフーズ（株）
（浜町　令和2年7月稼働開始）

（株）仙令平庄
（新浜町　令和2年7月稼働開始）

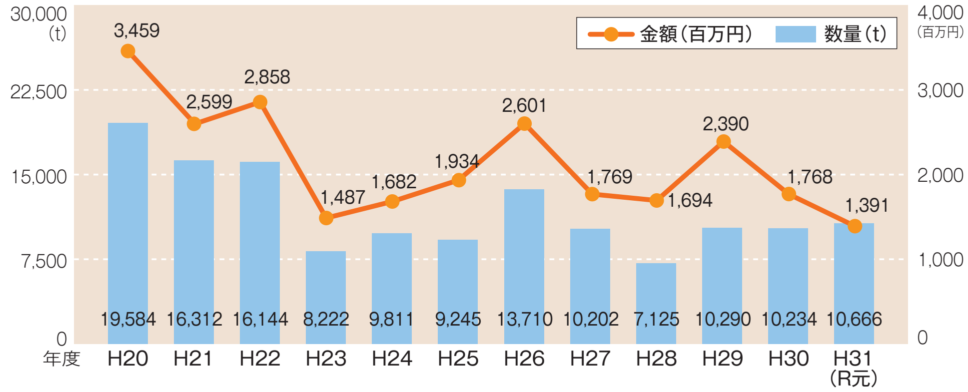
●水産物物流拠点の確保

製品保管機能の確保及び地域からの物流ネットワークの再構築により、産地からの安全安心な水産加工品の安定供給と販路の拡充が期待されています。

○整備地：釜石市嬉石町
○整備事業者：エア・ウォーター物流（株）
（平成26年9月稼働開始）

●魚市場の水揚推移

主力漁業である秋鮭を中心とした定置網漁業の水揚回復と、秋刀魚棒受網漁業を中心とした廻来漁船による水揚増強が今後の課題となっています。



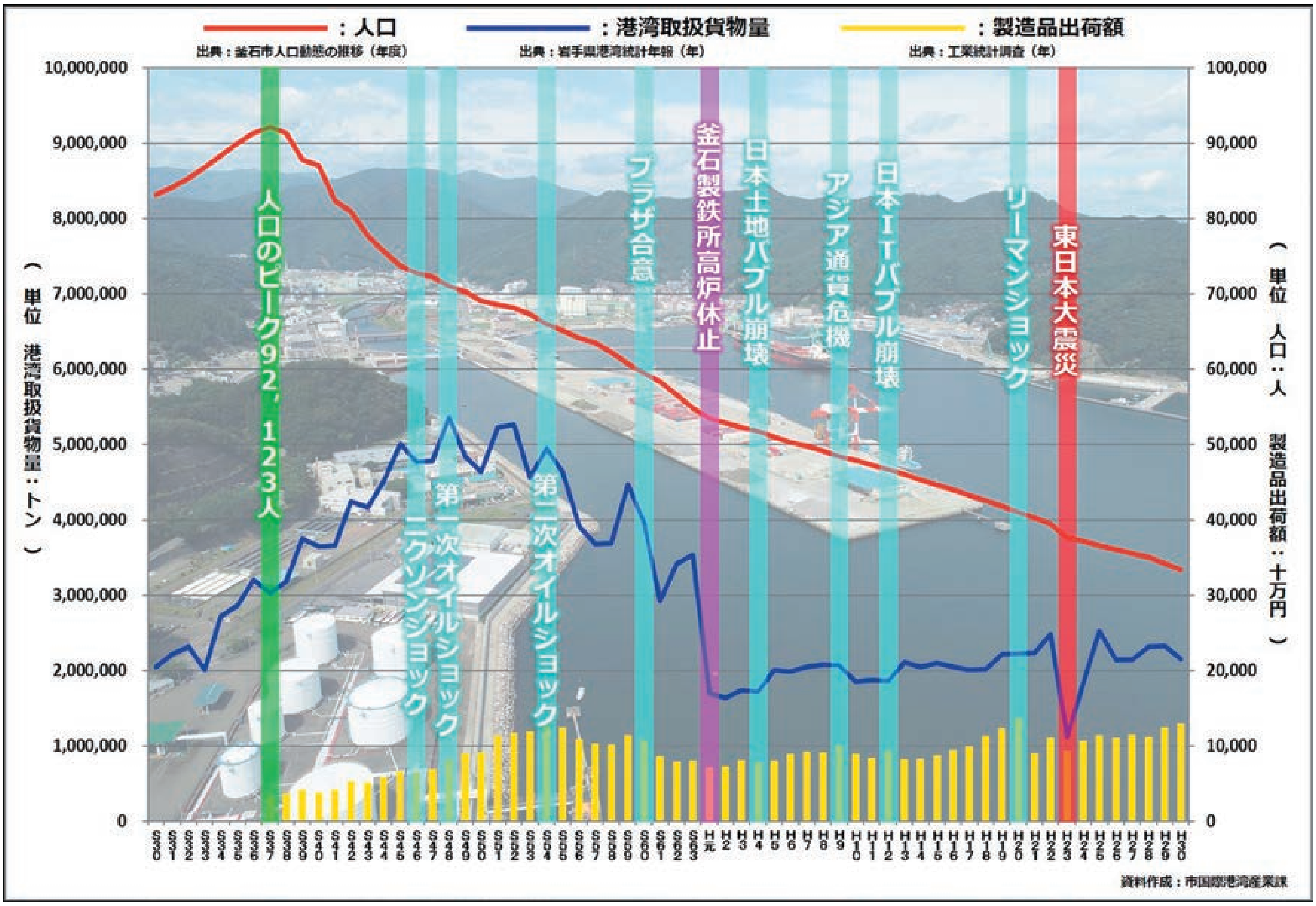
出典：釜石漁連地方卸売市場水揚統計

3 釜石港の復旧・復興状況

港湾取扱貨物量の状況

- 平成23年3月11日の東日本大震災で、未曾有の危機に瀕した釜石港も、復興需要に後押しされる形で利用と復旧整備が進み、今日に至っては、一部の貨物を除き、概ね震災前水準の利用状況を取り戻しています。
- 平成30年の港湾取扱貨物量は、2,155千トンを数えました。

人口／港湾取扱貨物量／製造品出荷額の推移



ポート・オブ・ザ・イヤー2019受賞

令和2年1月22日表彰式（東京都内）

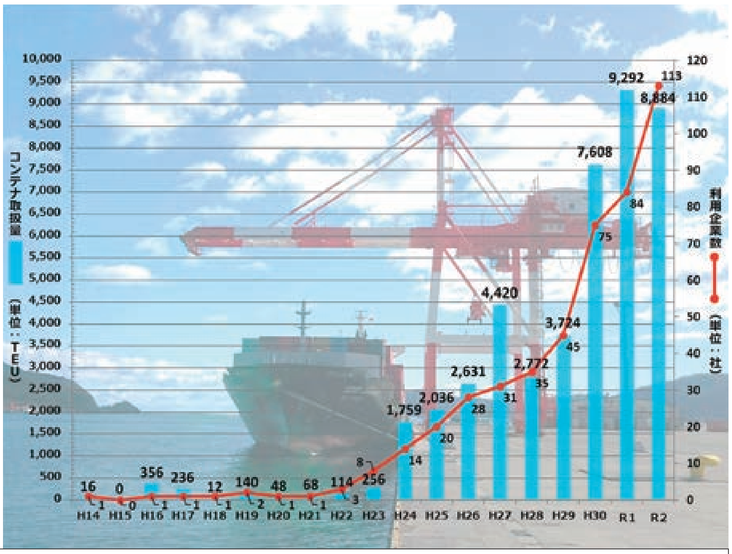
みなとオアシス釜石の代表施設「魚河岸テラス」

- 2019年の元気印日本一の港として、釜石港が「ポート・オブ・ザ・イヤー2019」を受賞しました。復興まちづくり、さらには岩手県経済を牽引する物流拠点形成に向けた取組が高く評価されました。

進む国際貿易拠点化

●東日本大震災から4ヵ月後、平成23年7月、国際コンテナ戦略港湾の京浜港と釜石港を結ぶ、国際フィーダーコンテナ定期航路が開設されました。
●令和２年のコンテナ取扱量は、コロナ禍にありながらも、歴代２位となる8,884TEUを記録しました。
●利用企業数は震災の年には8社でしたが、年々上昇を続け、令和２年は113社の企業に利用いただくまでに成長しました。
●釜石港で輸出入サービスを行うコンテナ船社も4社に増えており、貿易の選択肢が広がり、あらゆる貨物をタイムリーに全世界と輸出、輸入できる利便性が、今後、釜石市の雇用経済を支える企業誘致に大きく力を発揮していくことが期待されます。

釜石港コンテナ取扱量の推移



※TEU（Twenty feet Equivalent Unit）とは？
20フィートコンテナ換算個数。20フィートコンテナ1個を1TEU、40フィートコンテナ1個を2TEUとして、コンテナ取扱量をこの数値の合計で表示する。

ガントリークレーン供用開始

●国際フィーダーコンテナ船が大型化する傾向にあること、コンテナ取扱量が増大していること、さらには、外国船社が運行する大型コンテナ船が寄港することを踏まえ、岩手県は釜石港へ県下初となるガントリークレーンを整備しました。
●国際貿易を支えるコンテナ物流は、特にも荷役スピードが重要視されており、1時間あたり30本の荷役が可能なガントリークレーンによって、取扱量や航路数などのさらなる拡大が期待されます。
●増加するコンテナ取扱量をガントリークレーンが支えるとともに、コンテナを陸上輸送（ドレージ）する専用シャーシや、港湾ハンドリング機械など民間企業の設備投資も加速しています。

外貿コンテナ定期航路開設

●平成29年11月17日、中国、韓国と釜石港を週一便、ダイレクトで結ぶ外貿コンテナ定期航路が開設されました。
●岩手県内に工場、物流倉庫を構える企業、さらには、第一次産業群が少なからず中国を含む東アジア諸国と貿易を行っており、釜石港外貿コンテナ定期航路が岩手県経済発展の一翼を担うものと期待されます。
●釜石港の国際貿易港としての機能は、復興道路・復興支援道路の整備との相乗効果により、釜石市に物流の優位性をもたらします。

4 企業立地の状況

当市では、東日本大震災により、操業中の誘致企業12社のうち６社が津波の被害を受け、被災した６社のうち４社が再建したものの、２社が撤退しています。

震災以降、SMC（株）釜石事業所釜石工場の拡張や地場企業の新増設があったほか、新たに当市に進出した誘致企業５社が操業を開始しています。

現在の誘致企業数は15社（うち14社が操業中）、誘致企業の従業員数は約1,850名となっています。

また、当市は、岩手県を東西に横断する東北横断自動車道釜石秋田線と、三陸沿岸を南北に縦断する三陸沿岸道路の結節点にあり、更には物流機能の向上によって国際貿易拠点化が著しく進む釜石港を備えており、これらの地理的優位性を生かし、更なる企業誘致に取り組むとともに、事業者の新事業創設や生産性向上に向けた取組を支援することで、地場産業の活性化に取り組んでいます。

日本通運（株）

（株）麻生

エア・ウォーター物流（株）

福山通運（株）

●震災後の主な誘致企業

企　業　名	業　種
双日食料水産（株）　釜石工場	水産品加工
釜石ヒカリフーズ（株）	水産品加工
エア・ウォーター物流（株）釜石低温センター	水産加工品等の物流
福山通運（株）	運送業
（株）麻生　三陸釜石工場	食品加工

●震災後の主な新設・拡張等

SMC（株）工場増設　※誘致企業	（株）津田商店
（株）エスピージーフコク	岩手罐詰（株）
ホクモウ（株）	イオンタウン釜石
(有)中村家商品センター	日本通運（株）

5 再生可能エネルギー（海洋エネルギー・風力発電）

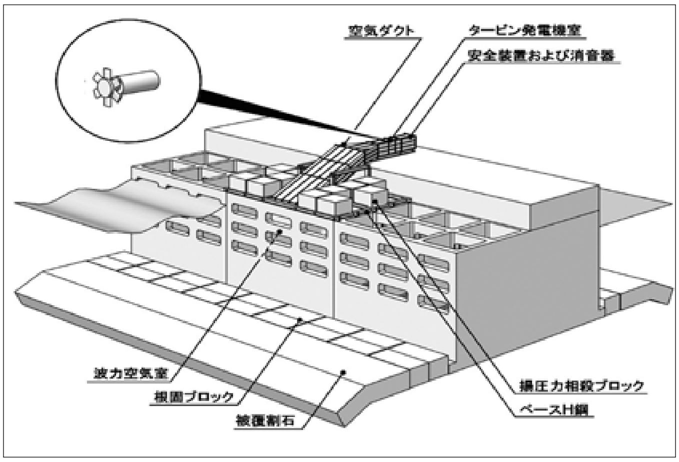
海洋再生可能エネルギーの取組

平成27年4月に内閣官房総合海洋政策本部事務局から、釜石沖が海洋再生可能エネルギー実証フィールドとして選定され、釜石・大槌地域産業育成センターや東京大学をはじめとする研究機関と地元企業との連携により、海洋再生可能エネルギーの研究開発に取り組んでいます。

令和2年12月には、市内事業者と東京大学先端科学技術研究センターなどの関係者により構成されたコンソーシアムで取り組んでいる波力発電システムを活用した実証事業が環境省事業に採択されました。本事業の発電システムは、防波堤に筒型の構造物を設置して、波力が発生させる空気圧の変化によりタービンを回してエネルギーを発生させるものです。

○事 業 名：インテリジェント吸波式波力発電による地域経済循環ビジネスモデル実証事業
○期 間：令和２年度～令和４年度
○実施主体：株式会社マリンエナジー

インテリジェント吸波式波力発電イメージ図



風力発電（釜石広域ウインドファーム）

平成16年12月、当市北西部の和山高原で風力発電所が運転開始されました。現在の総出力は42,900kWですが、約100,000kW規模の拡張計画が進められており、環境への配慮を怠ることなく、地球温暖化防止に寄与する再生可能エネルギーの普及を目指します。

（事業主体：（株）ユーラスエナジーホールディングス）

V. にぎわいと交流の創出

1 東部地区・中心市街地再生の取組（フロントプロジェクト1）

タウンポート大町

■事業者：釜石まちづくり株式会社
■オープン：平成26年12月

タウンポート大町

大町広場

■整備面積：南側広場　約2,300㎡
　　　　　　北側広場　約1,000㎡
■供用開始：南側広場　平成27年7月
　　　　　　北側広場　平成29年11月

南側広場

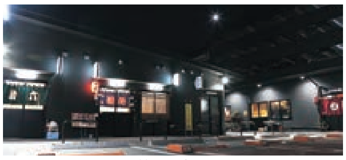
釜石市民ホール TETTO（テット）

■延床面積：約6,900㎡
■設備概要
ホールA（客席定員　838席）
ホールB（客席定員　218席）
ギャラリー（110㎡）、
スタジオ3室、会議室（33㎡）
■開館：平成29年12月

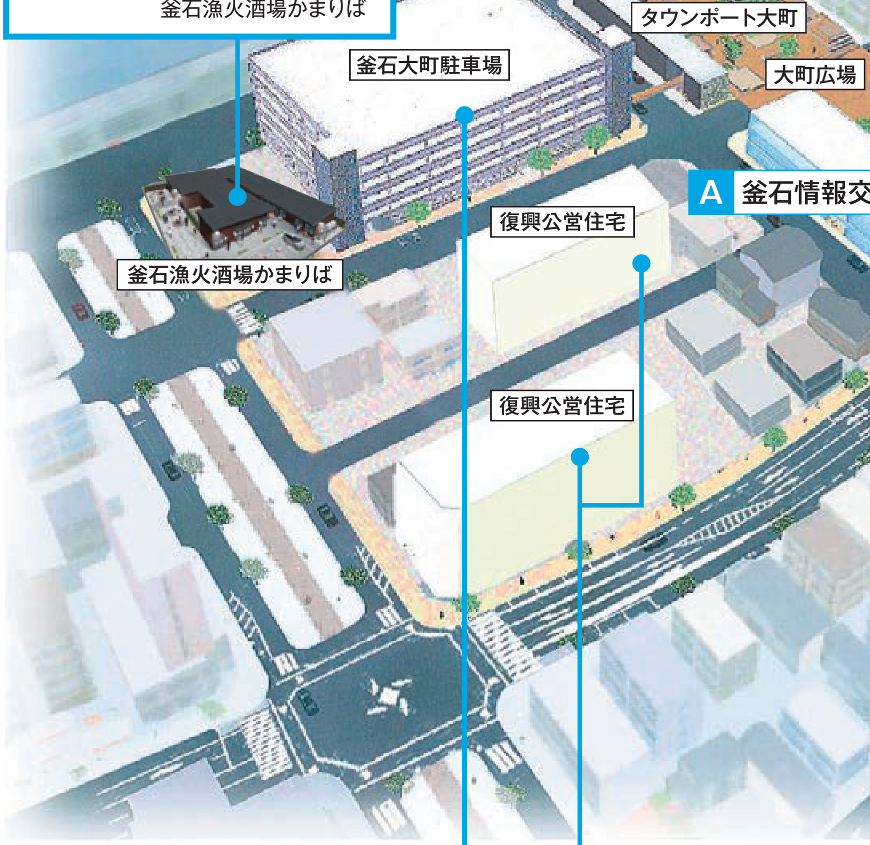
釜石市民ホール

釜石漁火酒場かまりば

■店舗数：13店舗
■オープン：平成29年1月

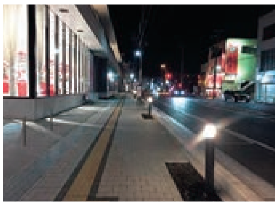


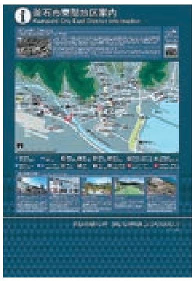
釜石漁火酒場かまりば



東部地区環境整備

■中心市街地のにぎわい創出のため、
足元照明灯74基と市街地サイン13基を設置。





釜石大町駐車場

■収容台数
472台
（身障者対応4台）
■構造
鉄骨造5層6段
（耐火構造）

釜石大町駐車場

復興公営住宅

■大町復興住宅4号棟
規模：8階建て（41戸）
その他：店舗（テナント）
入居開始：平成28年10月
■大町復興住宅5号棟
規模：6階建て（24戸）
入居開始：平成29年4月

大町復興住宅4号棟

A 釜石情報交流センター

釜石情報交流センターは、気軽に訪れて、地域の情報に触れ合える「市民の交流と活動の拠点」として、釜石市民ホールとともに地域文化の発展を支え、賑わいと交流を創出する施設です。

施設概要

- 名　　称／釜石情報交流センター
- 供用開始／平成27年12月
- 所 在 地／釜石市大町1丁目1番10号
- 延床面積／約970㎡

施設内容

- ラウンジ（約200㎡）
- 会議室 2室（16席、12席）
- ワークスペース（12席）
- 市民スタジオ（約31㎡）
- 多目的集会室（チームスマイル・釜石PIT）
- 飲食提供施設（ミッフィーカフェかまいし）

チームスマイル・釜石PIT

（一社）チームスマイルとのネーミングライツ契約により、釜石情報交流センター多目的集会室には「チームスマイル・釜石PIT」という呼称が付き、エンターテインメントを通じた復興支援活動を行う拠点として、アーティストのライブや映画上映会などが開催されます。

ミッフィーカフェかまいし

Illustrations Dick Bruna © copyright Mercis bv, 1953-2016 www.miffy.com

オランダ王国大使館及び（株）ディック・ブルーナ・ジャパンの協力の下、オランダ人の絵本作家・グラフィックデザイナーのディック・ブルーナが描くうさぎの絵本の主人公“ミッフィー”をテーマとした釜石オリジナルのカフェです。

ミッフィーストリート

平成30年12月に、ミッフィーカフェかまいしを起点に、釜石駅から魚河岸エリアを結ぶ県道釜石港線沿いをミッフィーストリート（愛称）として、ミッフィーの色々なサインを散りばめました。

2 新市庁舎建設の取組（フロントプロジェクト2）

震災から得られた教訓を生かし、防災拠点施設としての機能を重視するとともに、まちづくりの拠点として市民が利用しやすい安心・安全な新市庁舎を、令和5年度の開庁を目指し旧釜石小学校跡地に建設する計画を進めています。

◆新庁舎の基本理念と4つの基本方針

基本理念

『復興のシンボルとして釜石らしいまちづくりの拠点となる庁舎』

◆ 3つの設計コンセプト

基本理念と4つの基本方針に基づき、安全で使いやすい新庁舎をめざし、3つの設計コンセプトにより新庁舎をつくります。

新庁舎窓口イメージ

1. 災害に強い『強靭な新庁舎』

新庁舎は災害時の防災拠点施設として、業務継続性を高めるため、自立した設備等の整備を図るとともに、新庁舎敷地全体を活用した災害対応や、一時避難場所としての機能を有する安心・安全な施設として整備します。

2.『みんなのホール（多目的ホール）』から拡がる『防災と交流』

庁舎棟と南北棟の交点に市民利用スペースや防災機能を配置し、市民協働によるまちづくりや防災力を高めます。また、新庁舎の1、2階は市民が多く利用する窓口を配置し、みんなのホールと連続した使いやすい計画とします。

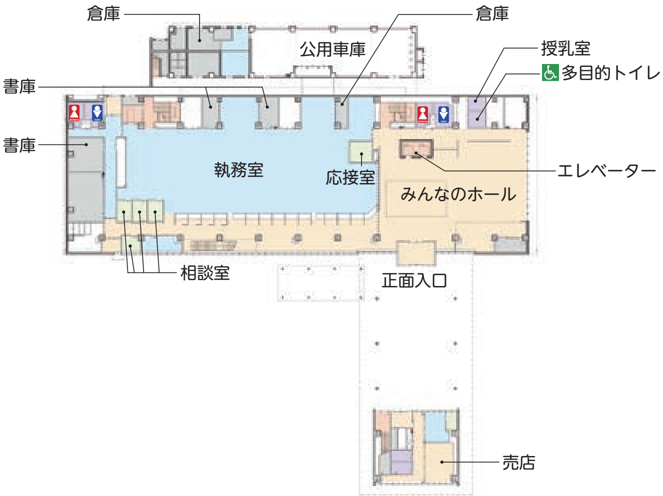
3. 市民を優しく迎える『ピロティ』

ピロティ空間が雨や雪の影響を最小限にし、来庁者を優しく迎えます。
また、この空間は、災害時には多目的な使い方を想定した計画とします。
新庁舎は、L形に配置し市道只越天神町線へ向け、視認性の確保と共に復興へのシンボルとしての表情をつくります。

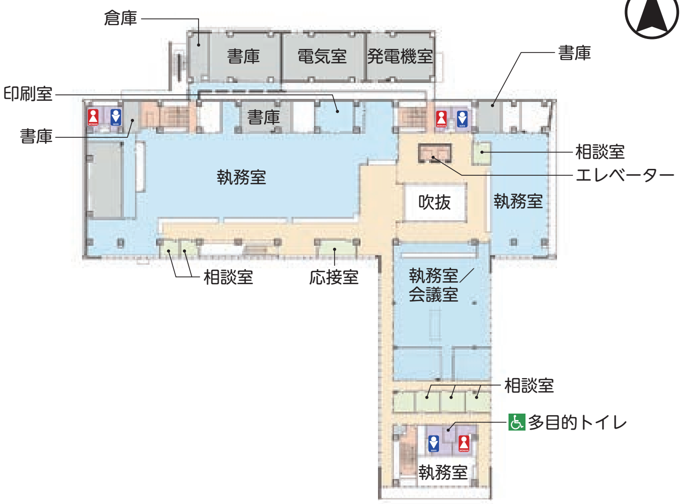
◆新市庁舎イメージ図

◆平面計画

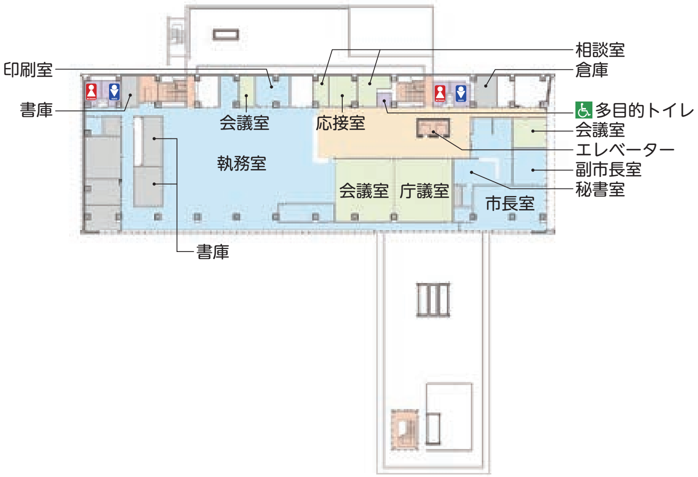
1階 執務エリア 窓口／みんなのホール



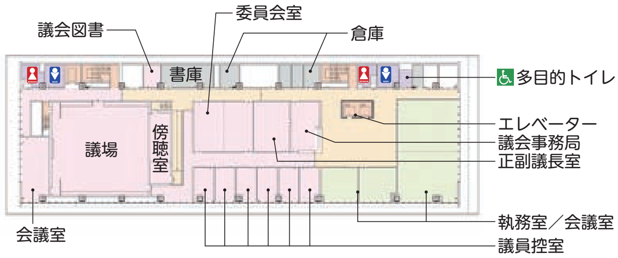
2階 執務エリア 窓口／会議室



3階 執務エリア・市長室等



4階 議会エリア



3 釜石魚河岸にぎわい館「魚河岸テラス」(フロントプロジェクト3)

魚河岸テラスは、釜石市魚市場に隣接し、魚河岸地区周辺のにぎわい創出の拠点として「魚のまち釜石」を発信していく施設です。

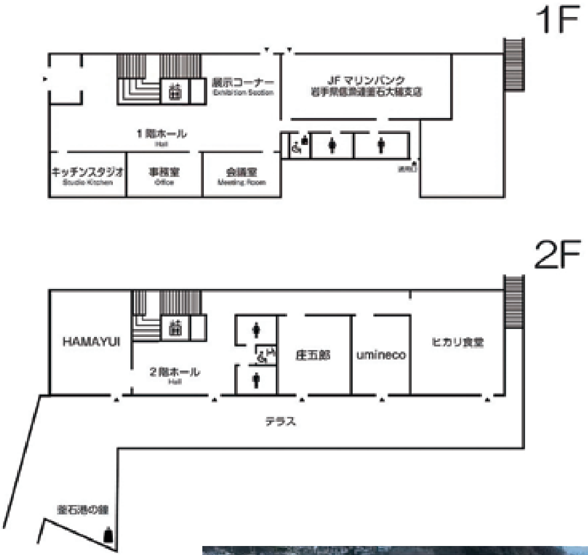
魚河岸テラスでは、2階の飲食店で釜石湾を眺めながら食事を楽しめるほか、1階ではキッチンスタジオや会議室を利用できます。また、施設内では虎舞や地元の魚の展示を行います。

施設概要

名　　称：釜石魚河岸にぎわい館
愛　　称：魚河岸テラス
所 在 地：釜石市魚河岸3番3
敷地面積：3,871.5㎡
延床面積：（本体）1,227.3㎡

施設内容

（1階）　キッチンスタジオ、会議室、
　　　　展示・物販スペース、銀行
（2階）　飲食店3店舗
（屋外）　物販施設、24時間トイレ



4 道の駅「釜石仙人峠」

地域特産品・農産物展示販売コーナー

地域特産品コーナー（水産加工品や地元名菓、地酒等）と市内農家が生産した農産物や農産加工品の直売コーナーを設けて販売。秋には甲子地域中心に生産されている甲子柿の販売も行います。

●開業日／平成27年4月21日
●施設概要
名称／道の駅「釜石仙人峠」
愛称／アユ躍る清流と甲子柿の里
位置／釜石市甲子町第7地割155番4
　　（甲子町関沢地区　国道283号と釜石仙人峠IC交差点に隣接）
敷地面積／約4,700㎡（道路部分含めると約5,600㎡）
建物／多目的棟（地域特産品・農産物などの展示販売、
　　飲食休憩コーナー、道路・観光情報提供）
　　トイレ棟（24時間利用可　男性用・女性用各7基、多目的トイレ1基）

5 復興道路・復興支援道路の整備

東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトのうち、東北横断自動車道釜石秋田線（釜石JCT～釜石仙人峠IC）、三陸沿岸道路（釜石南IC～釜石両石IC）が平成31年３月９日に、三陸沿岸道路（釜石北IC～大槌IC）が令和元年６月22日に開通し、これにより東北横断自動車道釜石秋田線が全線、三陸沿岸道路の市内区間が全線開通しました。

6 ラグビーワールドカップ2019™釜石開催のレガシーを未来に

パシフィックネーションズカップの開催

ワールドカップ仕様となる収容16,000人のスタジアムを使用して、パシフィックネーションズカップ2019日本ラウンドの1戦が開催されました。さらに、ファンゾーンをTETTOに開設しました。

ラグビーワールドカップ大会を見据えて、交通輸送、警備、医療救護、ボランティア活動等の運営を行い、課題等を抽出して本大会に反映しました。

スタジアム

2019（令和元）年7月27日（土）14:50キックオフ

日本　34 VS 21　フィジー

入場者数　13,135人

ファンゾーン（釜石市民ホールTETTO）

入場者数　5,000人

ラグビーワールドカップ 2019™ 概要

■アジア初、強豪国以外初の日本開催

（1）開催時期

2019（令和元）年9月20日（金）～11月2日（土）

（2）参加チーム　20チーム（国・地域）

（3）試合形式（全48試合）※45試合実施

①予選プール（9/20～10/13）（40試合）

※台風19号の影響により3試合中止

②決勝トーナメント（10/19～11/2）（8試合）

準々決勝、準決勝、3位決定戦、決勝

（4）結果

優勝	南アフリカ
準優勝	イングランド
3位	ニュージーランド
4位	ウェールズ

日本代表は初の決勝トーナメント（ベスト8）進出。

■入場者数　170万4,443人（45試合）

■釜石では予選2試合が組まれる

9月25日（水）14:15　キックオフ　プールD

フィジー　27 VS 30　ウルグアイ

入場者数　14,025人

10月13日（日）12:15キックオフ　プールB

ナミビア　VS　カナダ

※台風19号の影響により中止

■ラグビーワールドカップ2019™岩手・釜石開催に伴う岩手県内への経済波及効果

113億4,500万円

（一般財団法人岩手経済研究所試算）

9月25日（水）フィジー VS ウルグアイ

市内全小中学校の児童生徒による「ありがとうの手紙」の合唱

試合開始前に行われた震災で犠牲となられた方々への黙祷

フィジー対ウルグアイの熱戦

震災の教訓や防災の大切さを伝えるボランティア活動

秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下御観戦の前日東日本大震災慰霊碑を前に

釜石市ラグビーこども未来基金

基金の使途

ラグビーを活用したまちづくり

- 競技場施設の改修・維持管理
- ワールドカップ開催記念事業・イベント等の開催
- ラグビー関連事業、若年層の国際交流、人材育成等スタジアム施設を活用した事業
- 鵜住居運動公園を活用した事業等

お申し込み

「釜石市ラグビーこども未来基金」申込書を郵送、FAX、メール等でお送りください。
詳細及び申込書はHP上で「釜石市ラグビーこども未来基金」で検索をお願いします。
釜石市文化スポーツ部スポーツ推進課ラグビーのまち推進係
tel.0193-27-5712

ラグビーカフェ釜石

釜石ラグビーの文化と伝統を発信し、ラグビーに触れ親しみながら気軽に憩える交流空間として、ラグビーカフェを開設しています。ラグビー観戦等のパブリックビューイングや、国際交流員による英会話教室等も開催しています。

●場　所：シープラザ釜石2階中央フロア（釜石市鈴子町22-1）

●開設日：10:00～17:00（シープラザ釜石休館日は休み）

●内　容：

・ラグビーを通じた国内外交流に関するグッズパネル等の展示
・ラグビー体験コーナー（ボール投げ、キック、トライフォト）
・休憩、交流スペース（テーブル、椅子、無料Wi-Fi）
・市内外イベント会場での出張展示ブース設置

ファンゾーン（TETTO）

9月20日から11月2日までの30日間・全48試合のパブリックビューイング
※台風19号の影響により、28日間・41試合のパブリックビューイングの実施となりました。
来場者数　38,982人
ファンゾーンは、日本代表が悲願の決勝トーナメント進出を果たすなど、大会期間中、日本国内中が熱気・感動・興奮に包まれた中で、連日多くの方が来場されました。

10月13日（日）ナミビアVSカナダ

【台風19号の影響により中止】

スタジアム周辺には多くのファンが集まり大漁旗をなびかせました。

カナダ代表選手が被災した住宅を回りボランティア活動を行いました。

釜石開催の御礼（Thank You from KAMAISHI）

11月3日にワールドラグビーアワード2019でキャラクター賞を受賞

東日本大震災津波からの復興を通じ、ラグビーの価値を社会的に広めたとして評価され、ラグビーの国際統括団体であるワールドラグビーの年間表彰式において「キャラクター（品格）賞」を受賞しました。

～ラグビーワールドカップから1年…熱気と感動再び～

いわて・かまいしラグビーメモリアルイベントの開催

ラグビーワールドカップ2019™釜石開催1周年を記念し、令和2（2020）年10月9日（金）、10日（土）、いわて・かまいしラグビーメモリアルイベントを開催しました。

10日には、釜石鵜住居復興スタジアムで「メモリアルマッチ」を行い、釜石シーウェイブスがトップリーグの強豪クボタスピアーズと対戦。試合は73−12でクボタスピアーズが勝利しました。会場には2,271人が来場し、両チームに温かい拍手を送ると共に、試合の他様々なイベントやアトラクションを楽しみ、会場内に前年のラグビーワールドカップの熱気と感動がよみがえりました。

また、9日、10日には、釜石市民ホールで「ファンゾーン」を開催し、メモリアルマッチのパブリックビューイングやクボタスピアーズ出場選手らによるトークショーの他、ラグビーワールドカップを振り返るパネルや記念品の展示を行い、2日間で約1,200人が来場しました。

両イベントとも、入場者数の上限を収容者数の半分にするなど新型コロナウイルス感染予防対策を講じての開催となりました。

釜石シーウェイブスジュニアとスクラムユニゾンによる「ありがとうの手紙」合唱

メモリアルマッチの釜石シーウェイブス対クボタスピアーズ

ファンゾーンのトークショー

国際交流の体制強化

ラグビーワールドカップ2019™の開催を契機とした、外国人への円滑な対応の在り方、児童生徒の異文化を体験できる場の創出、市内在住の外国人の発展的な交流の場づくりを目的に平成30年度国際交流センターが新設されました。ラグビーワールドカップ2019™の開催に向けて、市民に「おもてなし」を実践していただけるよう体制を強化し、令和2年度からは、「世界とつながるKAMAISHI」を目指し、国際交流課として取り組みを進めております。

●活動内容
・インバウンド対応サポート
・外国人訪問者などへの対応
・国際理解の講座
・市民等の英会話教室

インバウンド対応サポート

試合会場へ向かう来場者への案内

7 東京2020におけるホストタウンの取組

2017年11月17日

復興「ありがとう」ホストタウンに登録決定!

（内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局、第一次登録）

復興「ありがとう」ホストタウンとは

東日本大震災の被災三県のホストタウン登録を推進するもので、東日本大震災から復興した姿を見せつつ、これまでの支援への感謝を伝えるために、支援をしてくださった相手国・地域の方々や大会関係者との交流を行う取組です。

登録のきっかけ

震災当時、釜石シーウェイブスRFCに所属し、後にラグビー豪代表となったスコット・ファーディー選手は、大使館からの避難勧奨を断り、釜石市のためにボランティアとしてチームメイトとともに救援物資の集積場で物資の積み降ろしや搬送作業に奔走しました。

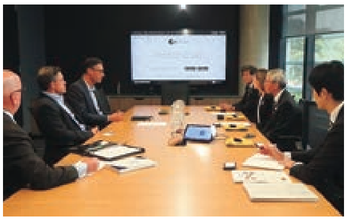
国内の姉妹都市である愛知県東海市を通じて、中学生の海外体験学習事業として平成26年度からビクトリア州マセドンレンジズ市に釜石市の中学生を受け入れていただいています。

これまでの交流　2018年

スコット・ファーディー選手を招聘してラグビークリニック　3月

スコット・ファーディー選手を招聘してタウンミーティング　3月

オーストラリア小学生を招聘してKAMAISHI KIDS TRYに参加　9月


豪を訪問し、震災支援の感謝と今後の交流についてのお願い　11月

2019年

スコット・ファーディー選手を招聘して食文化交流「せかいむすび」 9月

オーストラリア高校生と岩手県選抜高校生のラグビー交流　9月

オーストラリア小学生を招聘して異文化交流とラグビー交流　11月

ホストタウン連携・小田原市の小学生とラグビー交流　11月

2020年

豪大使館「フレンズ・オブ・オーストラリア」に登録　3月

オーストラリア森林火災災害支援金を豪赤十字社に送金　5月

「ともだち2020」プログラムで豪中学生とオンライン交流　9～11月

横断幕、幟旗等を市内に装飾し、ホストタウンをPR　10月～

2020年3月22日

東京2020オリンピック聖火リレーに先立ち、ギリシャから到着した聖火が岩手県「復興の火」として釜石駅前に展示。展示を終えた聖火は、大漁旗に見送られながらSL銀河で内陸へ向けて出発しました。その後、東京2020オリンピック· パラリンピック競技大会の1年延期が発表されました。

8 文化財の再生

東日本大震災によって、沿岸部の文化財や郷土芸能団体の備品、倉庫などが破損、流出し、文化財の保存・継承の危機に陥りました。震災後、様々な団体の支援によって、文化財の修復や郷土芸能団体の備品整備、山車保管庫整備等が実施され、復旧を果たしています。

郷土芸能復興支援

東日本大震災で被災した郷土芸能団体の備品や山車保管庫の整備を支援し、震災によって休止していた郷土芸能祭を再開しました。

写真　左：南部藩壽松院年行司支配太神楽
右：尾崎町虎舞

指定文化財の公開と修復

東日本大震災で被災した文化財の修復・復旧を行い、震災によって休止していた有形文化財展を再開しました。

写真　左：有形文化財展　右：平田御番所跡

石碑の修復と再設置

震災によって破損した石碑の修復や移転が必要となった石碑の再設置等を行いました。

写真　左：本郷津波記念碑　右：平田追分の碑

復興に伴う埋蔵文化財調査

道路建設や区画整理等の復興事業に伴い、14件の埋蔵文化財発掘調査が実施されました。地中に埋もれた釜石の歴史が復興事業と共に徐々に明らかとなりました。

横瀬遺跡発掘調査の様子

野川前遺跡から出土した土器

屋形遺跡の発見と保存

唐丹町の大石で発見された屋形遺跡は、縄文時代中期末から後期初頭の貝塚と住居跡が一体となった集落であり、三陸沿岸の生業の実態を示す貴重な遺跡であることから、釜石市で2件目となる国の史跡に指定されました。復興関連調査で保存され、国指定となった唯一の遺跡となります。

9 世界遺産「明治日本の産業革命遺産」橋野鉄鉱山

●平成27年7月 世界遺産登録 橋野鉄鉱山

　釜石での製鉄は、盛岡藩出身の大島高任が、安政4年12月1日（1858年1月15日）に、日本で初めて高炉法による鉄の連続生産に成功したことに始まります。

　当時の製鉄の様子を物語る橋野鉄鉱山が、平成27年7月に、「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として、世界遺産に登録されました。

近代製鉄の父
大 島　高 任

三番高炉

「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」と釜石

　「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、幕末から明治期の製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業分野における急速な産業化の道程を時間軸に沿って証言する８エリア23資産（現役の工場施設を含む）によって構成されています。

　日本が西洋地域以外で初めて、しかもわずか半世紀という極めて短期間のうちに、産業国家としての地位を確立したことは、奇跡とも呼ばれる世界史的意義を持つ出来事であり、技術や産業、社会経済に関わる世界の歴史的発展段階において、特筆すべきまれな事象です。

　構成する資産は、国内の８県11市に立地し、地理的に分散していますが、各々の特性を組み合わせ１つの世界遺産価値を持つ（いわゆるシリアルノミネーション）として、世界遺産に登録されました。

　橋野鉄鉱山は、日本現存最古の高炉をはじめ、鉄鉱石の採掘から製錬までの全ての工程を示す遺跡で、３基の高炉石組や水路、御日払所などの初期の近代製鉄関連遺構が、自然豊かな森林や川に囲まれた美しい景観とともに所在しています。

　橋野鉄鉱山は、幕末における幕府や雄藩の西洋技術の導入と強いつながりを持ち、後の官営八幡製鐵所の完成に至る近代製鉄の流れの発端となっています。

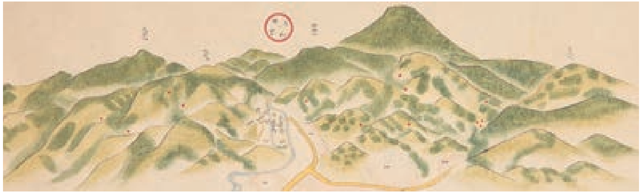
「明治日本の産業革命遺産」構成資産

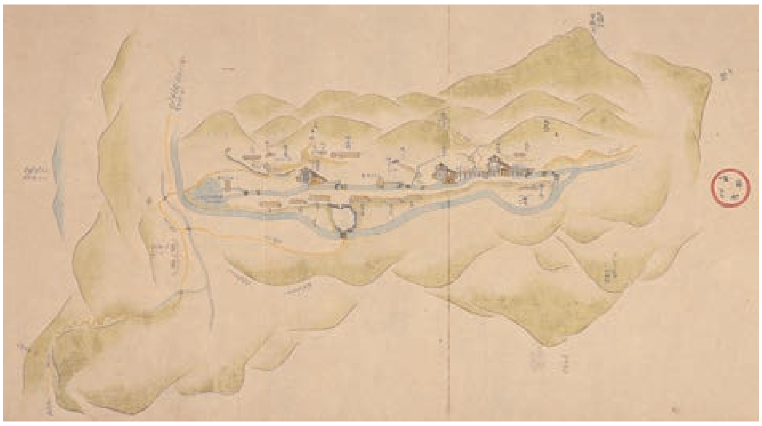
❶萩【山口県】萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾、❷鹿児島【鹿児島県】旧集成館（反射炉跡、機械工場、旧鹿児島紡績所技師館）、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝、❸韮山【静岡県】韮山反射炉、❹釜石【岩手県】橋野鉄鉱山、❺佐賀【佐賀県】三重津海軍所跡、❻長崎【長崎県】小菅修船場跡、三菱長崎造船所第三船渠、同ジャイアント・カンチレバークレーン、同旧木型場、同占勝閣、高島炭坑、端島炭坑、旧グラバー住宅、❼三池【福岡県・熊本県】三池炭鉱（宮原坑、万田坑、専用鉄道敷跡）、三池港、三角西港、❽八幡【福岡県】官営八幡製鐵所（旧本事務所、修繕工場、旧鍛冶工場）、遠賀川水源地ポンプ室

絵図に見る橋野鉄鉱山

橋野鉄鉱山全景

高炉場（模型）
釜石市郷土資料館蔵





採掘

露天掘りで鉄鉱石を採掘する様子。

運搬

採掘した鉄鉱石を牛や人が運ぶ様子。

高炉出銑

高炉から鉄を取り出す様子。

県指定文化財『紙本両鉄鉱山御山内並高炉之図』は令和２年11月28日に実施された橋野鉄鉱山世界遺産登録５周年記念シンポジウム記念式典において、日本製鉄株式会社から釜石市に寄贈されました。日本製鉄が所有以前は南部家が所蔵しており『南部家絵巻』とも呼ばれています。

この絵巻は、文久年間（1861～1864)に業務報告として盛岡藩お抱えの絵師が描いたものと推測されます。

１巻には大橋高炉と橋野高炉、各採掘場の位置や設備配置図、個々の高炉や、フイゴ、水車などの装置の設計図が詳細に描かれています。

２巻には採掘から製鉄に至る工程が詳細に描写されています。

釜石の鉄に触れ、日本の産業革命を知る!

橋野鉄鉱山インフォメーションセンター

【国登録有形文化財】
旧釜石鉱山事務所

釜石市立鉄の歴史館

Ⅵ. 安心安全なまちづくり

1 復興を内包した地域包括ケアの取組

地域包括ケアによるまちづくりは、医療・介護・予防・生活支援・住まいを柱とし、子育て支援から高齢者等のこころのケア、住民同士の支え合い活動や健康づくり、さらには、復興公営住宅の自治会設立及び地域との交流支援など、復興を内包した「釜石版地域包括ケアシステム」の構築を推進します。

民間事業者との「見守り協定」の締結

- 日常的に住民と接することが多い事業者等が、普段の業務を行うなかで、住民の異変に気付いた場合、市に情報提供をしてもらうことにより、迅速な支援につなげていく試みとして、「見守り協定」を締結しています。

ご近所支えあい復興事業

- 復興公営住宅への入居や自立再建による新たなコミュニティの構築や人口減少・高齢化により、被災者や高齢者等を取り巻く環境が大きく変化しています。
- 高齢者等が住み慣れた地域で最後まで自分らしく暮らしていくためには、地域での支え合いが重要となってきます。
- 地域住民が生活支援や介護予防、認知症ケア等の継続的な担い手になり、高齢者等が地域で支え合いながら自立した生活を送ることができるよう、住民主体の支え合い活動を支援する「ご近所支えあい復興事業」を行っています。

こころのケア

東日本大震災は、市民の心身に多大な影響を及ぼしています。市では、専門機関と連携して、こころの健康づくりに関する普及啓発を行う一次予防、こころに関する相談等の二次予防、遺族支援等の三次予防を重層的に実施し、こころのケアに取り組んでいます。

- 一次予防（一般住民への普及啓発等）
  ゲートキーパー養成講座やこころのセミナーなどを開催し、こころの健康問題に関心を持つ人を増やし地域全体で見守る意識を醸成しています。
- 二次予防（相談や訪問等の支援）
  こころの相談窓口の周知を図り、保健師が随時相談対応するほか臨床心理士による個別相談や休日の電話相談を開設しています。
- 三次予防（精神疾患患者への対応や遺族支援等）
  震災等により大切な人を亡くした人が分かち合うことによりこころの健康回復を目指すグリーフケア・サロンを開催しています。

みんなの健康づくり応援事業～かまいし健康チャレンジポイント～

- 健康寿命の延伸を図る取組の一つとして、各種健診の受診促進と健康イベントや公民館事業等への参加を希望する方、各種運動・スポーツを取り組む方に、健康ポイントを付与し、特典を与えることにより自らを励まし、楽しく、無理せず継続できるよう、市民のみなさんが行う健康づくりを応援しています。

2 復興公営住宅での自治会設立支援

復興公営住宅の自治会は、入居者同士が復興住宅での課題を整理し、一人ひとりが自発的にすべきことや共同生活のルールを明らかにするうえで必要な組織でもあり、孤立や閉じこもり防止にもつながり、入居者間の交流や見守り活動においてもなくてはならないものと考えます。このため、社会福祉協議会や支援団体と一体となって、自治会設立に向けた支援を進め、入居者間のコミュニティ形成を支援しています。その中で、令和元年11月には、市内の復興住宅自治会同士の課題意識や、解決事例の共有を図り、自立した自治会活動を支援するために復興住宅自治会連絡協議会を設立しました。

令和3年3月では、27団地中24団地で自治会が設立されています。

3 安心できる子育て環境づくり

子どもの数が減少傾向にある一方で女性の就業率は上昇傾向にあることから、多様な就業形態に柔軟に対応し、子育て家庭の就労を後押しするため、保育所、地域型保育事業所ならびに児童館、学童育成クラブの整備やこども園化の推進に努めるとともに保育士等の確保にも取り組んできました。

また、被災した障がい児通所支援事業所（すくすく親子教室）を市立こども園に併設復旧整備し、未就学児向けの児童発達支援、就学児等を対象とした放課後等デイサービスを提供しています。

引き続き、就学前児童及び放課後児童の待機の解消、発達支援が必要な子への支援を図り、安心して子育てできる環境づくりを推進します。

〈市内の施設概要〉

●認可保育所	5園（定員370人）	●幼稚園	1園（定員46人）
●認定こども園	5園（定員586人）	●保育型児童館	2館（定員70人）
●小規模保育事業所	4園（定員59人）	●学童育成クラブ	11クラブ（定員530人）

上中島こども園

すくすく親子教室

上中島児童館

小佐野・小佐野第二学童育成クラブ

4 学校等建設事業の概要

鵜住居地区及び唐丹地区において被災した、小・中学校、幼稚園及び児童館等を安全な高台で同一敷地内に建設しました。それぞれが連携しやすい教育環境を整備しながら、防災拠点としての機能も強化しています。

鵜住居地区学校等建設事業

鵜住居小学校・釜石東中学校・鵜住居幼稚園

●供用開始　平成29年4月

唐丹地区学校等建設事業

唐丹小学校・唐丹中学校

●供用開始　平成29年2月

5 学校給食センター整備事業の概要

次代を担う子どもたちの成長を育む学校給食センターは、平成30年9月の工事着工を経て令和2年3月竣工しました。令和2年4月から新しい学校給食センターから市内小中学校14校の児童生徒の皆さんに安全安心な給食の配食を行っています。

●供用開始　令和2年4月
●市内小中学校全14校（小学校9校・中学校5校）最大2,600食／日
●太陽光発電設備や非常用発電機、災害時の炊き出しに対応できる旧施設の厨房機器を活用した防災倉庫の設置

6 東日本大震災の検証

目的・基本的な考え方

○釜石市を含む三陸沿岸は、過去から津波被害が繰り返され、東日本大震災では千人を超える尊い命が失われる悲劇となりました。今回の震災において、これまでの先人の教訓はなぜ生かされなかったのか。このことを重く受け止める必要があります。このことから、検証テーマを『繰り返されてきた津波の悲劇から何を学び何を未来に生かすのか』として震災の検証作業を行いました。

○平成23年12月、釜石市東日本大震災検証委員会を設置し、平成26年度まで6編の検証報告書を取りまとめました。検証の成果は、震災誌の発刊、防災意識の向上に向けた防災市民憲章の制定、 地域防災計画、震災メモリアル施設整備などの市の防災施策に反映させるとともに、震災を後世に引き継ぐ地域文化の醸成を図っていきます。

平成23年度以降取りまとめた検証報告書

●釜石市東日本大震災検証報告書（平成23年度版）
●釜石市東日本大震災検証報告書（平成25年度版）
【津波避難行動編】
●釜石市東日本大震災検証報告書（平成26年度版）
【災害対策本部編】
【避難所運営編】
【学校・子ども関連施設編】
【地域編】

津波から未来の命を守るための釜石の教訓
東日本大震災を忘れず、子どもたちに伝えるために

これまでの検証成果、市民の証言などを基に「津波から未来の命を守るための釜石の教訓」を取りまとめ、教訓集「未来の命を守るために」を作成して、市内の各家庭に配布しました。

教訓の内容

教訓は、大きく4つに分類され、「揺れたら、ただちに高台へ避難」「子どもを学校へ迎えに行かない」「命てんでんこで行動する」など18の教訓を掲げています。また、未来の命を守るため、大切なことを10のメッセージにまとめました。

【教訓の4つの柱】

①命を守るための行動
いざというときは想定にとらわれず、 最善を尽くせ。 率先避難者たれ。

②避難生活で命をつなぐ
津波から逃れても、 長期避難生活が待っている。 命をつなぐために、 必要なものを備えておく。

③命を守るための備え
それぞれの地域で、 個別具体的に十分に検討し、 備え、 実践を積み重ねる。

④津波の記憶を未来へ伝える
自然の恵みを享受し、 豊かな暮らしを持続させるためにいたずらに海を恐れず、 十分に備え、 記憶を伝えていく。

釜石市防災市民憲章の制定

市では、震災から学んだ教訓を後世に伝え、あらゆる災害から未来の命を守るため、「釜石市防災市民憲章」の制定に向けた取り組みを行い、平成30年の釜石市議会9月定例会において可決されました。制定年月日は、東日本大震災の発災同一日である平成31年3月11日とし、鵜住居駅前の防災センター跡地に完成した「釜石祈りのパーク」に、「釜石市防災市民憲章」を刻んだモニュメントを設置しました。

◆釜石市防災市民憲章が制定されるまで

○平成23年４月	東日本大震災検証報告書の作成
○平成28年11月	教訓集の市内全戸配布、意見集約活動の実施
○平成30年２月	釜石市防災市民憲章制定市民会議の設立、「災害から、未来の命を守るワークショップ」の開催
○平成30年４月	「みんなでつくろう防災市民憲章フォーラム～災害から命を守る市民の誓い～」の開催
○平成30年６月	釜石市防災市民憲章草案の完成、市民会議による市長への提言
○平成30年７月	パブリックコメントの実施
○平成30年９月	釜石市議会9月定例会において制定議案が可決
○平成30年12月	「釜石市防災市民憲章フォーラム～釜石市防災市民憲章を市民に広げていくために～」の開催
○平成31年３月11日	釜石市防災市民憲章の制定

釜石市防災市民憲章　命を守る

釜石市は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により、千人を超える尊い命を喪った。その悲しみが、癒えることは決してない。

しかし、古来より、先人たちが、度重なる災害や戦災をたくましく乗り越えてきたように、今、私たちは、ふるさと復興への途を歩み続けている。

自然は恵みをもたらし、ときには奪う。

海、山川と共に生き、その豊かさを享受してきたこの地で安全に暮らし続けていくためには、また起こるであろうあらゆる災害に対し、多くの教訓を生かしていかなければならない。

未来の命を守るために、私たちは、後世に継承する市民総意の誓いをここに掲げる。

備える
災害は　ときと場所を選ばない
避難訓練が　命を守る

逃げる
何度でも　ひとりでも　安全な場所に　いちはやく
その勇気は　ほかの命も救う

戻らない
一度逃げたら　戻らない　戻らせない
その決断が　命をつなぐ

語り継ぐ
子どもたちに　自然と共に在るすべての人に
災害から学んだ生き抜く知恵を　語り継ぐ

私たちは生きる。
かけがえのないふるさと釜石に、共に生きる。

【憲章文の解説】

●憲章文は、「タイトル」、「前文」、「本文」、「結文」で構成されています。
（本文）「命を守る」ための重要な教訓について、災害前（備える）、災害時（逃げる・戻らない）、災害後（語り継ぐ）の4つの項目に取りまとめています。
【備　え　る】避難を可能とするのは、日ごろの訓練であり、その大切さを「からだ」で理解すること。
【逃　げ　る】避難を繰り返す大切さ、自分のすばやい率先避難が、周りの避難を促すこと。
【戻らない】お互いに避難の仕方を確認しておくなど家族の信頼関係を築き行動すること。
【語り継ぐ】これらの行動を実践し続け、「当たり前」となる災害文化を創ること。
（結文）これまでの度重なる災害などを乗り越えてきたように、自然の豊かさを享受しながら、これからも釜石の地で、共に助け合いながら生きる市民の決意を表しています。

大震災かまいしの伝承者制度

市は、釜石市防災市民憲章の理念を継承するため、東日本大震災の被災体験、復旧・復興の取り組み、震災から学んだ教訓などについて、将来にわたり市民一人ひとりが大震災を忘れることなく、語り継ぐ意識づけを促すとともに、大震災の出来事を市内外に語り継ぐため、令和元年5月に、大震災の出来事に関する共通認識、伝承の手法などを習得する機会を設けた「大震災かまいしの伝承者」制度を設立しました。

大震災かまいしの伝承者の主な役割、活動内容

①家庭など身近な人に対して、震災の出来事を伝え、災害時の避難の仕方などを話し合い、災害に備える、災害から身を守る意識を高めること
②ステップアップ研修などで身に付けた知識や手法により、外来者などの外部の人に対して、震災の出来事などを相手の求めに応じて語り伝えること

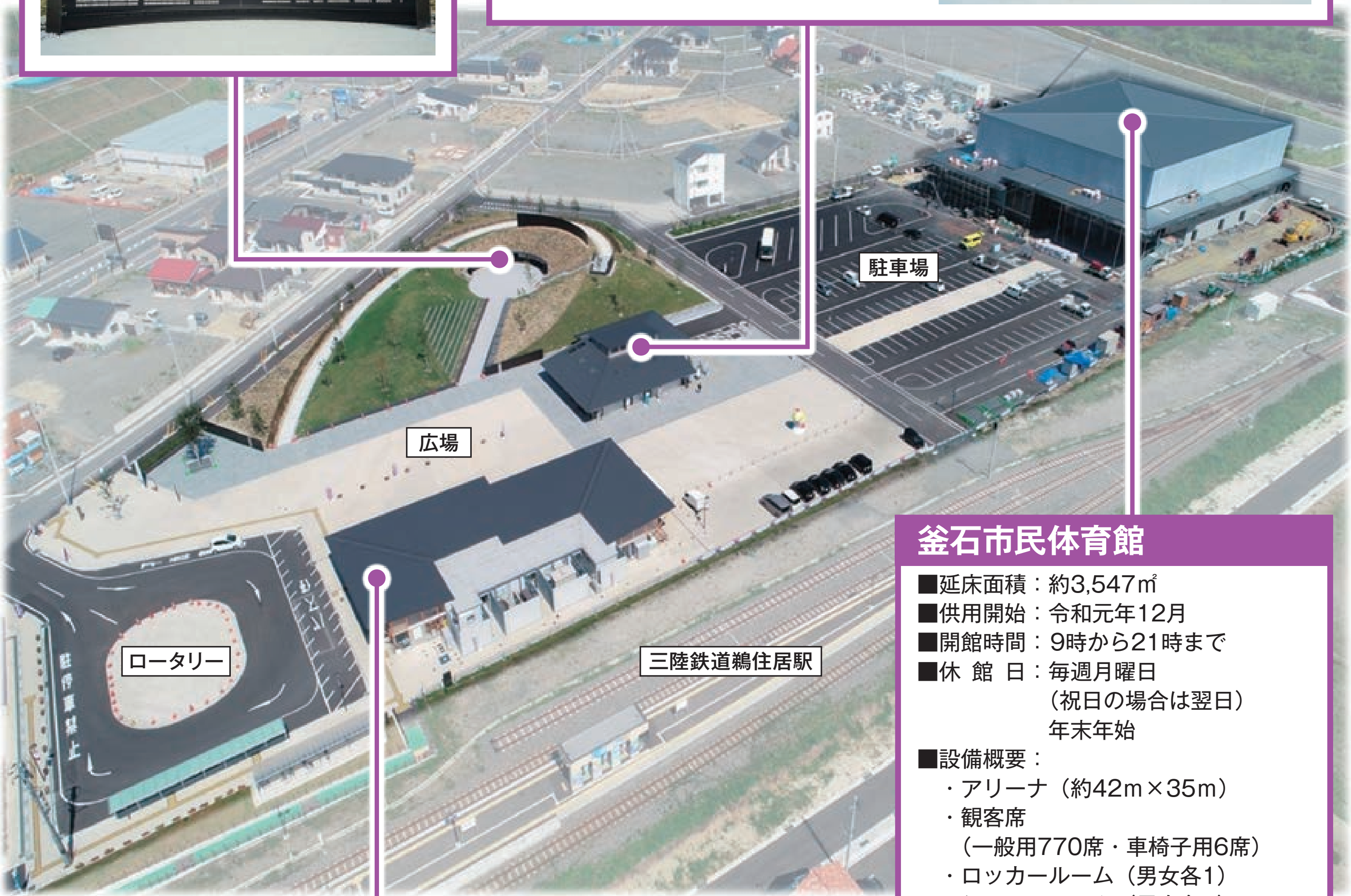
市が公募を行い、応募があった方のうち、所定の研修を修了した方に大震災かまいしの伝承者証を交付しています。これまでに83名の方が大震災かまいしの伝承者になりました（令和元年度54名、令和2年度29名）。

また、ラグビーワールドカップ2019™釜石大会の開催時には、大震災かまいしの伝承者となった方々の有志により、会場となった鵜住居復興スタジアム内において、観戦者に東日本大震災の出来事などを伝える取り組みも行われました。

7 鵜住居駅前地区公共施設「うのすまい・トモス」

うのすまい・トモスは「東日本大震災の記憶や教訓を将来に伝えるとともに、生きることの大切さや素晴らしさを感じられ、憩い親しめる場」として、複数の公共施設を一体的に配置し、地域活動や観光交流の拠点とする鵜住居駅前地区です。

■トモスの意味
復興の明かりを「灯す（ともす）」「共に」「友」を意味する言葉の響きと、鉄のまち釜石の炉のイメージを表現



釜石祈りのパーク

■敷地面積：約4,900㎡
■供用開始：平成31年3月

いのちをつなぐ未来館

■敷地面積：334.54㎡
■供用開始：平成31年3月
■開館時間：9時30分から17時30分まで
（11月～2月　17時まで）
■休 館 日：毎週水曜日・年末年始
■主な施設
・展示室、防災学習室、資料閲覧室

鵜の郷交流館

■延床面積：537.82㎡
■供用開始：平成31年3月
■開館時間：9時から18時まで
■休 館 日：毎週水曜日・年末年始
※一部テナントにより異なる。
■主な施設
・交流・飲食スペース
・物販スペース　・トイレ（24時間）

釜石市民体育館

■延床面積：約3,547㎡
■供用開始：令和元年12月
■開館時間：9時から21時まで
■休 館 日：毎週月曜日
（祝日の場合は翌日）
年末年始
■設備概要：
・アリーナ（約42m×35m）
・観客席
（一般用770席・車椅子用6席）
・ロッカールーム（男女各1）
・シャワールーム（男女各1）
・会議室、医務室、赤ちゃん休憩室、トイレ

釜石 祈りのパーク

3月11日献花式（慰霊碑）

釜石市防災市民憲章碑

鵜住居地区防災センター跡地碑

東日本大震災の犠牲者を慰霊、追悼するとともに、震災の教訓を後世に伝える施設。
中央の慰霊碑には犠牲者の芳名を刻んだ芳名板や献花台を設置し、丘の上にはあらゆる災害から未来の命を守る市民総意の誓いとして作られ、平成31年3月11日に制定した「釜石市防災市民憲章」を刻んだ碑、多くの地域住民が避難し犠牲となる痛ましい出来事が起こった防災センターの跡地を示す碑などを設置しています。

いのちをつなぐ未来館

展示室

ワークショップ（防災学習室）

震災伝承活動（資料閲覧室）

震災の出来事や教訓とすべきことを伝えるとともに、災害から未来の命を守るための防災学習を推進する施設。
東日本大震災の概要や釜石の防災教育について紹介する展示室、震災に関する書籍や資料を収蔵・閲覧できる資料閲覧室、企画展や防災学習に関するワークショップなどの幅広い用途に活用できる防災学習室の3つのゾーンで構成し、震災伝承の活動拠点として幅広い世代が様々な活動に取り組んでいます。

鵜の郷交流館

交流・飲食スペース

物販スペース

朝市

地域の魅力発信やにぎわいを創出し、交流人口の拡大を促す拠点施設。
観光情報やイベント情報を発信する情報案内、釜石ならではの特産品や土産物が購入できる物販スペース、採れたての海産物をふんだんに使用した海鮮丼などが味わえる交流・飲食スペースがあります。また、隣接する広場では地域のお祭りや朝市などの各種イベントが行われ、市内外からの多様な交流を促進します。

釜石 市民体育館

アリーナ

岩手ビッグブルズ戦

地域行事の利用風景

競技スポーツをはじめ、健康づくりの場、交流の場として、広く市民が活用することを目的とした施設。
東日本大震災の被害により解体した旧市民体育館に代わる施設として新たに整備し、令和元年9月の完成後はラグビーワールドカップ2019™のボランティアスタッフの控室として活用されました。12月から一般供用を開始し、各種スポーツ大会の他、子ども会の集まりや郷土芸能の練習会場などの幅広い活動に利用されています。

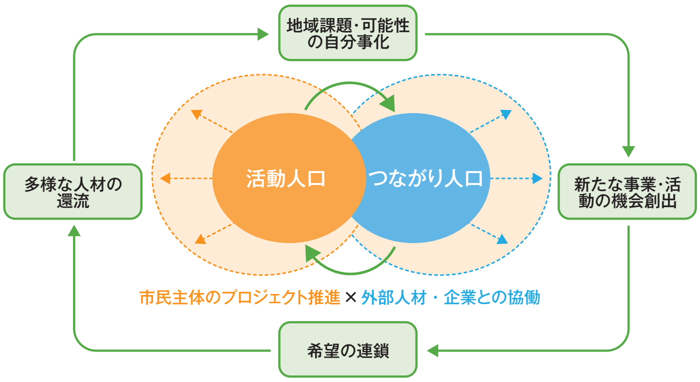
Ⅶ.未来の希望を創るまちづくり

1 第2期釜石市人口ビジョン・オープンシティ戦略

人口減少・少子高齢化に対応し、地方創生を推進する羅針盤として平成28年3月に第1期戦略を策定しました。平成30年5月に「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点等を取り入れ改訂し、国や社会の動向、第1期の成果と課題を踏まえ、令和2年4月に改訂しました。

基本理念

「オープンシティ」とは「市民一人ひとりが役割を持ち、真に開かれたまち」の実現のため、歴史が育んだ文化的土壌や、復興プロセスを通じて得られた地域内外の多様なつながりを生かし、人口減少の緩和を図りながら、性別や年齢などに関わらず、市民一人ひとりが主体性を持ち、活躍できる環境づくりを行うことで、持続可能な地域社会の形成を目指します。



人口ビジョンの論点を踏まえた5つのプロジェクト

①人材を還流させるまちの人事部機能の構築

オープンシティ戦略を推進するエンジンとして、釜石という地域単位で“人事”を捉え、多様な人材を還流させるマネジメント機能を構築・強化していきます。

②ライフステージに応じた少子化対策・子育て支援

出会い・結婚・出産・子育ての各ステージに応じた切れ目のない支援策や現代のライフスタイルに沿った取り組みを通じて、少子化に歯止めをかけます。

③外貨の獲得・地域内循環の促進

外貨の獲得や経済の域内循環を促進し、観光振興、企業誘致やテレワーク、港湾振興や産学官連携などを通じた魅力ある仕事の創出を目指します。

④あらゆる人材が活躍できる地域社会づくり

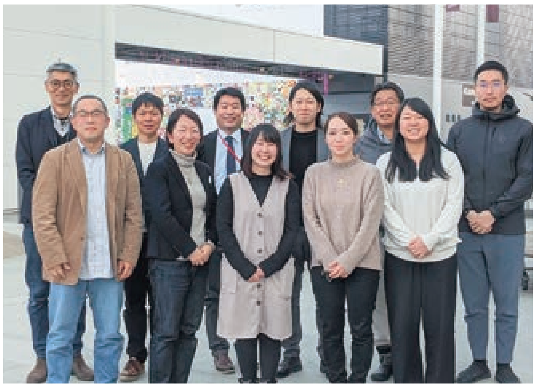
次世代を担う人材育成、女性や高齢者、外国人労働者を含めた多様な人材活躍、健康寿命の延伸、ダイバーシティ&インクルージョンの推進を目指します。

⑤官民共創によるオープンイノベーション

SDGsを通じた官民連携、半官半民の地域コーディネーター、地域おこし企業人や企業版ふるさと納税、新たなテクノロジーを用いた社会課題解決を目指します。

2 釜援隊

　「釜援隊」とは、まちづくりに関わる人や組織をつなぎ、官民一体の復興まちづくりを推進する復興支援員です。金融・マスコミ・国際機関など多様な経歴をもつUIターン者が釜援隊として活動し、住民や地域団体と協働しながらコミュニティ形成や産業振興等幅広い活動を推進し、釜石の復興まちづくりを支えました。釜援隊は総務省の復興支援員制度を活用した市事業であり、2013年4月に設立され、2021年3月まで8年間、活動しました。



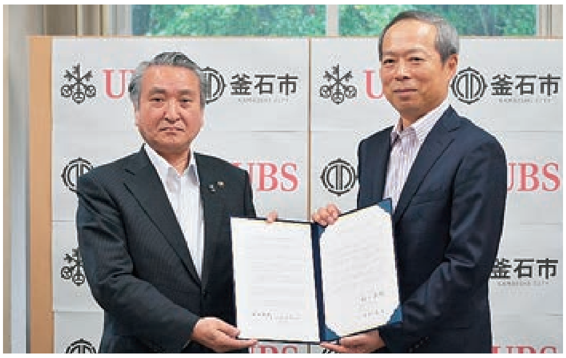
●総勢29名の多様な経歴を持つ人材が釜援隊として活動し、釜石の復旧・復興を支援しました。
●ハードの復旧に関する合意形成の仲介やまちのにぎわい再生に向けた地域行事・市民活動の支援など、ヨソ者・半官半民の立場を活かしながら必要な人材・資源をつなぐ「リージョナルコーディネーター＝地域の調整役」として活動しました。
●隊員の活動進捗や目標設定をサポートし、地域のニーズと外部人材をマッチングするマネジメント機能を内包した体制が特徴です。外部人材を登用した持続的なまちづくりの先導モデルとして全国に発信されています。
●詳細はこちらから→
　釜援隊HP：
　　https://regional-coordinator.org/

●協働先一覧

協　　働　　先	主な支援活動
鵜住居地区復興まちづくり協議会	地域活動
市総合政策課オープンシティ推進室	若者の活躍
釜石地方森林組合	林業担い手育成
平田地区生活応援センター	復興公営住宅コミュニティ活動支援
釜石まちづくり株式会社	中心市街地活性化
株式会社かまいしDMC	観光まちづくり、特産品開発
岩手大学釜石キャンパス	漁業担い手育成
NPO法人釜石東部漁協管内復興市民会議	地域活動
市総合政策課震災検証室	震災検証・防災学習
釜石地区生活応援センター	復興公営住宅コミュニティ活動支援
鵜住居地区生活応援センター	復興公営住宅コミュニティ活動支援

3 高校生に対するキャリア教育「釜石コンパス」

　市内の高校生に対して、県内外の企業やNPOなどと連携して、自身のキャリア意識や郷土愛、起業家精神を醸成する教育プログラム「釜石コンパス」を平成27年11月から実施しています。市内の2つの高校で開催するプログラムには、毎回市内外から多様な社会人が講師として駆けつけ、高校生との真剣な対話セッションを行っており、令和2年までの6年間で延べ700名以上の講師とおよそ5,000名の高校生が参加しています。
　この取り組みは、平成28年6月にUBSグループと釜石市において締結した「『オープン・シティ』実現のための多様性ある持続可能なまちづくりの推進に向けた協働宣言」の一環として実施するものであり、次世代の子どもたち・若者たちの可能性と主体性を最大限に拓く機会を創造するため、両者で協働していきます。
　事業の継続的運営体制の構築のため市内民間事業者と高校生と地域をつなぐコーディネーター（行政型地域おこし協力隊）が事務局に加わり事業を推進しています。



4 地域おこし協力隊の活躍

総務省「地域おこし協力隊制度」を活用した3種類の採用制度を設け、地域課題解決の担い手や市内における起業・事業承継の推進に寄与する人材の誘致を行っています。

行政型地域おこし協力隊による行政施策の推進

会計年度任用職員として行政事業を推進し、地域課題の解決に取組む「行政型地域おこし協力隊」を運用しています。

空き家バンクの運用による空き家の利活用及び危険空き家の防止の推進や観光客誘致に向けた観光マーケティング・体験プログラムツアーの造成、課題解決型学習支援による高等学校教育の魅力化など、特定のテーマに基づいた行政事業の推進を担っています。

起業型地域おこし協力隊による地域の新たな魅力創出に向けた起業・事業承継

個人事業主として、地域資源を活用した新たなビジネスの創出や社会課題の解決につながるソーシャルビジネスの創出を目指す「起業型地域おこし協力隊」を運用しています。

新たな商品の開発や空き家をリノベーションしたゲストハウス業などのビジネスが生まれるとともに、防災をテーマとした国際交流事業や自然保育事業などのソーシャルビジネスも生まれています。

地域おこし研究員による地域の課題・魅力の分析

慶應義塾大学との地方創生に関する連携協力協定に基づき、大学院生が地方創生に寄与する研究実践活動を行う「地域おこし研究員」を運用しました。

東日本大震災発生時の釜石市立釜石小学校児童の避難行動の事例を調査研究し、釜石で行われてきた下校時津波避難訓練の科学的な効果を分析するとともに、同様の条件下にある静岡県内の小学校にて、下校時避難訓練の導入を行いました。

5 地域おこし企業人の活躍

総務省「地域おこし企業人」交流プログラムを活用して、三大都市圏の民間企業から一定期間社員を受け入れ、民間人材の持つスキルやノウハウを活かし、地域の魅力向上や活性化に向け活動しています。

これまで3つの民間企業から3名が派遣され、現在は、うち2名が活動しています。

派遣企業	人　数	内　　　容
株式会社LIFULL	1名（任期満了）	空き家の利活用による地域活性化
江崎グリコ株式会社	1名	地域資源を活用した商業観光の推進
ソフトバンク株式会社	1名	行政のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進

6 UIターンへの挑戦

移住定住ポータルサイト　フレフレ釜石 Try 人

　釜石の魅力やUIターンの先輩の声など、釜石での暮らしが手にとるようにわかるポータルサイトができました。
　釜石市移住コーディネーターが投稿するコラムも随時更新しています。
　また、サイトをベースにしたパンフレットを作成し、首都圏のUIターン窓口等に配架しています。

フレフレ釜石Try人
釜石市移住定住ポータルサイト

次世代 UI ターン喚起事業

　地元を知ることがUIターンへの一歩と考え、以下のイベントを開催しました。令和2年度以降も継続して開催していきます。

●子どもたちの柔軟な人生観を学ぶ！ 親向け就活講座2020

　就職活動前の高校生や大学生の親御さんを対象に、今の就職活動の時期･内容や、地元企業の紹介などを行いました。自分たちが行った就職活動との違いを知り、就職活動を控えたお子さんとの接し方を学ぶ機会となっています。

●かまいし若者仕事フェア2021

　釜石出身の学生やUターンを検討している方などを対象に、オンラインでイベントを開催しました。実際にUターンした先輩の声を聞いたり、市内企業の担当者と直接話すなど、釜石で働くことや暮らすことを総合的に知ることができます。

釜石市移住コーディネーター

　自分の仕事・活動を生かして、市と一緒に移住定住に取り組んでいただく釜石市移住コーディネーターに仲間が増えました。

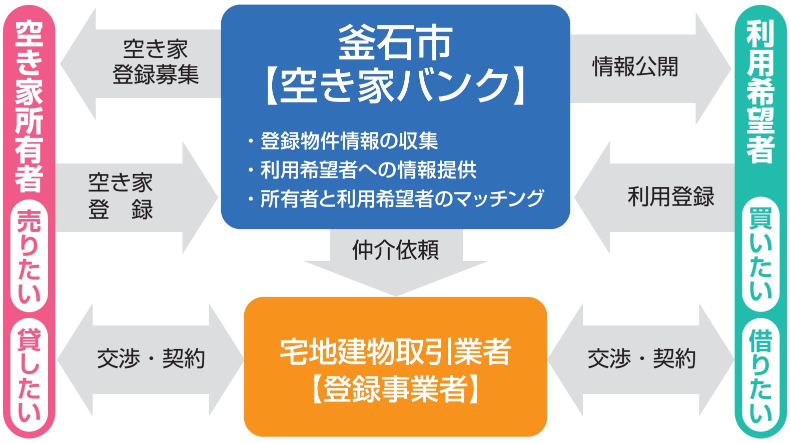
左から、市長、佐々木江利さん、岩城一哉さん、城守理佳子さん、手塚さや香さん

7 空き家の利活用

釜石市空き家バンク

空き家バンク制度は、市内に存する空き家の情報を一元的に集約し発信することで、住宅の中古物件市場の活性化を推進して、市内の住宅需要の充足及び釜石市への移住定住の促進を図ることを目的として平成28年7月に発足しました。

売却や賃貸の意思がある空き家所有者から登録された物件情報は市のホームページで公開され、利用希望者から問い合わせがあれば、その内容を所有者へお知らせします。その後、空き家所有者と利用希望者のマッチングが成立すると、契約交渉の仲介を宅地建物取引業者が行うことになっています。



●登録できる物件
- 釜石市内の物件
- 個人が所有する戸建て住宅で、現に人が居住していないもの。（居住しなくなる予定のものも可。）
- 宅地建物取引業者と管理・媒介契約が締結されていないもの。
  （※建物の老朽化が著しい場合は登録をお断りすることがあります。）

8 しごと・くらしサポートセンター／ジョブカフェかまいし

令和３年１月、市内最大の商業施設であるイオンタウン釜石内にしごと・くらしサポートセンターを開設しました。センター内「ジョブカフェかまいし」では、仕事に関する相談や就職活動の支援、各種セミナーの開催など、求職中の方と在職中の方を対象に、釜石で「はたらく」ことのサポートを行っています。また、採用や人材育成などに関する企業からの相談にも応じています。

令和３年度からは、センター内に移住定住や空き家の利活用に関する相談窓口も設置し、釜石での「しごと」と「くらし」の一体的な支援体制の構築を図ります。

9 教育機関･金融機関等との連携

教育機関との協定締結

【震災以降の締結状況】

●拓殖大学との震災復興支援協定（平成24年10月）
　※ラグビーワールドカップの会場地である「釜石鵜住居復興スタジアム」における拓殖大学ラグビー部・サッカー部等の合宿及び交流試合等の実施を新たに盛り込んで、平成27年10月、協定を再締結

●国立大学法人東京大学との東京大学釜石カレッジ開設に関する覚書（平成24年10月）

●学校法人龍澤学館との震災復興支援協定（平成24年10月）

●聖学院大学との連携に関する協定（平成26年1月）

●国立大学法人東京大学社会科学研究所との危機対応研究センター開設に関する覚書（平成28年11月）

●慶應義塾大学との地方創生に関する連携協力協定（平成29年8月）

●国立大学法人東京大学社会科学研究所との危機対応研究センターに関する覚書（令和2年2月）

●文京学院大学との包括連携協定（令和2年2月）

【参考・震災前】

●岩手大学と相互友好協力協定（平成13年3月）

●北海道大学大学院水産科学研究院および水産学部と包括連携協定（平成17年10月）

●学校法人北里研究所北里大学・岩手県と包括連携協定（平成20年2月）

●国立大学法人東北大学金属材料研究所と連携に関する覚書（平成22年3月）

東京大学社会科学研究所との危機対応研究センターに関する覚書（令和2年2月）

金融機関等との復興まちづくり・地方創生に向けた連携

●UBSグループ・（一社）RCF復興支援チームとの復興まちづくりに向けた共同宣言（平成26年6月）

●（一社）RCF復興支援チームとの包括連結協定（平成26年7月）

●（株）岩手銀行との地方創生の連携に関する協定（平成28年2月）

●（株）日立製作所、（一社）新興事業創出機構との釜石市における地域の活性化に向けた取組に関する協定（平成28年6月）

●UBSグループとの「オープンシティ」実現のための多様性ある持続可能なまちづくりの推進に向けた協働宣言（平成28年6月）

岩手大学釜石キャンパス

　岩手大学は、三陸水産業の復興を担う人材育成を目的として、平成28年4月に農学部食料生産環境学科水産システム学コースを設置しました。所属する学部生は3年後期から、岩手大学釜石キャンパス（平成29年4月開設）で学びます。令和2年3月には、第1期生が卒業し今後の活躍が期待されています。また、大学院総合科学研究科地域創生専攻（修士課程）の大学院生も釜石キャンパスで研究活動を行います。

　令和元年7月には、釜石キャンパス内に市・県の助成を受けて実験室や学生室等を備えた「総合教育研究棟（水産系）」が供用開始され、キャンパス機能が拡充されました。国立大学が地方公共団体の補助金を活用して新築の教育施設を整備した全国初の事例として注目されています。

令和2年度　岩手大学地域連携フォーラム　オンライン配信の様子

10 危機対応学の取組

危機対応研究センターについて（東京大学社会科学研究所×釜石市）

東日本大震災による津波の記憶継承と将来の様々な危機に適切に対応するための方策を研究し社会的に提言するための協働拠点として、平成28年11月に危機対応研究センターを開設し、釜石市および三陸地域の東日本大震災への対応に関する調査研究を実施してきました。

この調査研究の成果として、『地域の危機・釜石の対応：多層化する構造』（東京大学出版会）が出版されることを記念して、地域が直面する複雑な危機とそれらへの対応について、釜石の経験をもとに、危機対応と希望との関係を考えるシンポジウムを令和2年2月15日に開催したほか、釜石での地域社会調査の成果に関する展示や地域社会との社会的記憶の継承を考える機会として、アート・スタディー・ツアーを実施しました。

同日、令和3年度まで危機対応研究センターの開設期間が延長され、海と希望の学校に関連する事業活動を実施することが盛り込まれました。

令和2年2月9日　釜石市民ホールTETTO

記憶にまつわるよろずごとを扱う、不思議な「よろず屋」が開かれました。

令和2年2月15日　危機対応学成果報告会

海と希望の学校

海と希望の学校は、大槌町で長年の海洋研究実績を有する東京大学大気海洋研究所と「希望学」や「危機対応学」などの調査研究を当市をフィールドとして活動を続ける東京大学社会科学研究所、釜石市が主体となって、三陸沿岸の複雑な海洋環境と地域ごとに異なる文化や社会の関連を明らかにし、海をベースにしたローカルアイデンティティの再構築を通じて地域に希望を育む地域連携研究・教育プロジェクトです。

三陸の“海”の魅力・誇りを再確認し、“希望”を育みながら地域ブランドを担う次世代の人材を育成することを目的として、令和3年2月4日には、釜石市立唐丹中学校で、湾ごとに異なる海洋科学的多様性の実態と人文社会科学的な関係性から三陸の海や文化等について出前授業を開催しました。

令和3年2月4日　海と希望の学校出前授業（釜石市立唐丹中学校）

11 持続可能な三陸地域を

定住自立圏構想の推進

釜石市と大槌町は相互の自主性と自立性を尊重しながら役割分担し、医療、福祉、教育、産業振興、防災、地域公共交通、地域内外の住民との交流・移住促進、人材育成等の面から連携、協力することによって、必要な生活機能を確保して、定住促進を図る中長期的な視点に立った広域連携の取り組みを進めています。

平成30年2月26日には中心市宣言、平成30年3月20日には定住自立圏形成協定を大槌町と締結、平成30年7月12日には釜石・大槌定住自立圏共生ビジョンを策定し、今後、連携の強化を図っていきます。

岩手三陸連携会議の取組

岩手県沿岸部13市町村で構成する岩手県沿岸市町村復興期成同盟会は、東日本大震災からの復興後を見据えて、単独市町村では解決が難しい課題に対して、構成市町村が連携して取り組むための「共同声明」を平成27年9月19日の総会で決議しました。

平成28年8月2日には、共同声明の実現に向けた新しい連携組織である「岩手三陸連携会議」が設立され、中長期的に持続可能な三陸沿岸地域の形成に向けて、協働で課題解決を図ることとしています。

令和2年度　岩手三陸連携会議（陸前高田市開催）の様子

12 第六次釜石市総合計画策定の取組

かまいし未来づくり委員会

第六次釜石市総合計画策定に当たり、市民の考えや意見などを計画に反映させるため、「かまいし未来づくり委員会」を組織し、具体的な検討を行っていただきました。かまいし未来づくり委員会は、第六次釜石市総合計画の素案を調整し市長に提言するため、令和元年12月に発足しました。全委員公募により62 名で構成し、全11回にわたり検討を行いました。検討の結果を「新しい釜石市総合計画策定に向けた提言書」としてまとめ、令和2年11月に釜石市長に提出いただきました。提言書の内容は、「釜石市の将来像への提言」「将来像の実現に向けた市民の役割」「基本目標への提言」「基本目標を実現するために重要なこと」「取組主体」「重点施策」にまとめられました。

目指す釜石の将来像

一人ひとりが学びあい　世界とつながり未来を創るまちかまいし
～多様性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち～

第10回かまいし未来づくり委員会
かまいし絆会議との併催による小・中・高校生との合同ワークショップ

第11回かまいし未来づくり委員会（最終回）

Ⅷ.参考資料

■年齢3区分別人口・世帯数の推移

単位：人・世帯

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人　口		39,464	37,590	37,161	36,584	36,078	35,547	35,005	34,240	33,437	32,609	32,069
年少人口（0～14歳）	人数	4,366	4,062	3,986	3,806	3,713	3,579	3,485	3,344	3,195	3,055	2,946
	割合	11.1%	10.8%	10.7%	10.4%	10.3%	10.1%	9.9%	9.8%	9.6%	9.4%	9.2%
生産年齢人口（15～64歳）	人数	21,667	20,808	20,401	19,912	19,466	18,999	18.511	17,811	17,221	16,659	16,377
	割合	54.9%	55.4%	54.9%	54.4%	54.0%	53.4%	52.9%	52.0%	51.5%	51.1%	51.1%
老年人口（65歳以上）	人数	13,431	12,720	12,774	12,866	12,899	12,969	13,009	13,085	13,021	12,895	12,746
	割合	34.0%	33.8%	34.4%	35.2%	35.8%	36.5%	37.2%	38.2%	38.9%	39.5%	39.7%
世帯数		17,421	16,986	16,984	16,987	16,951	16,874	16,778	16,662	16,424	16,230	16,099

平成22年度から令和元年度は3月末時点、令和2年度は2月末時点の数値

■人口動態の推移

単位：人

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人口	39,464	37,590	37,161	36,584	36,078	35,547	35,005	34,240	33,437	32,609	32,069
増減	△ 874	△ 1,847	△ 429	△ 577	△ 505	△ 531	△ 542	△ 765	△ 803	△ 828	△ 540
社会増（転入）	826	1,505	1,292	1,252	1,270	1,205	1,155	1,031	1,088	974	697
社会減（転出）	824	2,451	1,347	1,443	1,345	1,311	1,274	1,414	1,444	1,304	788
社会動態	2	△ 946	△ 55	△ 191	△ 74	△ 106	△ 119	△ 383	△ 356	△ 330	△ 91
自然増（出生）	188	237	233	211	220	197	206	192	179	147	121
自然減（死亡）	1,064	1,165	607	597	651	622	629	574	626	645	570
自然動態	△ 876	△ 928	△ 374	△ 386	△ 431	△ 425	△ 423	△ 382	△ 447	△ 498	△ 449

平成22年度から令和元年度は3月末時点、令和2年度は2月末時点の数値

■自力再建の状況（生活再建支援金申請状況）

（R3年2月末時点）

被災地区	被災世帯数※1（再建希望数※2）	再建済み世帯数※3	再建率（再建済み世帯数／被災世帯数）	市内（被災時と同じ地区）に再建	市内（被災時と別の地区）に再建	市外・県外に再建
東部地区	1,359	432	32%	111	213	108
	(559)			25.7%	49.3%	25.0%
嬉石・松原	399	145	36%	44	62	39
	(147)			30.3%	42.8%	26.9%
平　田	272	120	44%	79	16	25
	(138)			65.8%	13.3%	20.8%
唐　丹	293	131	45%	86	23	22
	(214)			65.6%	17.6%	16.8%
両石・鵜住居・片岸・箱崎	1,745	930	53%	412	308	210
	(996)			44.3%	33.1%	22.6%
上記以外（中妻など）	16	9	56%	8	0	1
	(42)					
全　体	4,084	1,767	43%	740	622	405
	(2,096)			(41.9%)	(35.2%)	(22.9%)

※1：生活再建支援金の「基礎支援金」申請済み世帯数。（長期避難区域含む）
※2：住宅再建最終意向調査（H25年8月～9月実施）の『自立再建希望数』。
※3：生活再建支援金の「加算支援金（建設・購入）」申請済み世帯数。

釜石市

〒026-8686　岩手県釜石市只越町3-9-13
TEL 0193-22-2111（代表）
FAX 0193-22-2686
Eメール　sougou@city.kamaishi.iwate.jp（総合政策課）
fukko@city.kamaishi.iwate.jp（復興推進本部）
ホームページ　https://www.city.kamaishi.iwate.jp
Facebook　https://www.facebook.com/kamaishi.opencity/

釜石市 LINE

（LINEアプリ友だち追加用二次元バーコード）

令和3年3月発行